



第138号

Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第117回 WFP 作品展(再掲)
- ・ ちょっと早い 2020 年年賀詰作品展
- ・ 推理将棋第123回出題

結果発表

- ・ 第116回 WFP 作品展
- ・ Fairy of the Forest #61
- ・ 推理将棋第121回解答
- ・ 第1回不詰展示会 by 占魚亭

読み物

- ・ 第3回神無太郎の氾濫 出題編
- ・ 第2回不詰展示会 by 占魚亭

(改訂:2020/1/3)



2019/12

はじめに

徳島西部

四国散策シリーズの第？弾は徳島県西部を旅して来ました（日帰り）まず訪れたのは徳島県美馬町にある「うだつの町並み」ここは江戸時代から阿波藍で栄えた商家町で歴史的な構造物が立ち並んでいます。うだつ（卯建）は屋根の両サイドに隣からの火の粉を防ぐ為に設けられたもので富の証として競って作られました。「うだつが上がる」のことわざはここから来ています。町並みを散策していると、将棋の第12世名人：小野五平翁の生家がありました。ちょっとした出会いを感じました。



←小野五平翁生家

次に訪れたのが、阿波の土柱。うだつの町並みからは10分位走ったところにあり世界三大土柱の1つです。



←阿波の土柱

「土柱」と言えば皆さんには、近藤孝さんの作品を思い出す人も多いでしょう。（図はあとがきで紹介します）そのため1回は見ておきたかった場所でした。遊歩道を通れば土中の上部にも行けます。上からの土柱もなかなかスリリングです。皆さんも是非行って見て下さい。

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第138号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

第117回WFP作品展(再掲) 担当：神無七郎

今月のWFP作品展の新規出題はお休みです。本稿では第117回WFP作品展の出題稿を再度掲載します。

〔第117回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第117回の出題は全14題。内訳は占魚亭氏3題、神無太郎氏4題、高坂研氏3題、上谷直希氏1題、変寝夢氏2題、たくぼん氏1題です。

今回はImitatorを使った作品と、透明駒を使った作品が多く、これらのルールの習熟度によって解図時間は大きく変わりそうです。今回は解答募集期間が通常より一ヶ月長いので、この時間を有効に活用して解答をお寄せください。

117-1～117-3は占魚亭氏による「中立駒」と「Imitator」を組み合わせた作品群です。おそらくかなり難しいので一つヒントを出しておきましょう。中立駒で王手をするとき、うっかり自玉にも王手を掛ける反則をしやすいのですが、Imitatorを上手く利用すれば、双方の玉に王手が掛かっているように見えて、実は片方にしか王手が掛かっていない状態が作れます。そんな手を上手く使いましょう。

117-4～117-7は神無太郎氏のImitator作品。これらの作品群では中立駒は使われていないので、占魚亭氏の作品よりは解きやすいと思いますが、何しろImitatorですから、ヒントを出しておきましょう。「玉(王)がよく動きます」。

117-8～117-10は高坂研氏の透明駒作品。作者名から予想できるかもしれませんが、**117-8**は「逆算可能」であることが前提になっています。つまり逆算を続けてもどこかで行き詰まらないこと(実戦に透明駒はないので「実戦初形に逆算できること」とは違う表現にしました)を条件として透明駒の絞り込みに利用できます。

なお本作品展では特に注釈がない限り出題図が以下の条件を満たすことを仮定します。

- 1) 攻方手番であること
- 2) 標準の駒種、駒数であること
- 3) 二歩・行き所のない駒がないこと
- 4) 相手番の玉に王手が掛かっていないこと

これに当てはまらない場合や、追加の条件を要求する場合は、それが分かるようにして出題しますので、投稿される方は、あらかじめご承知おきください。

117-11は上谷直希氏の透明駒作品。高坂氏と同時にになったのは偶然ではなく、今年が透明駒誕生から10周年だからでしょう。

透明駒には色々と細かい注意点があります。持駒「なし」は透明駒以外の持駒が「なし」であるという意味だとか、受方の駒台は見えないことになっているとか、詰上り透明駒が持駒に残って駒余り扱いしない等の細則があるのです。疑問点があったら、上谷氏のまとめられた「透明駒はじめてガイド」(<http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-136.html>)を参照してください。

117-12、117-13は変寝夢氏の「All-in-Shogi」と「駒全マネ禁」。前者は詰上りを想定できれば、難しくないでしょう。「駒全マネ禁」は前回に引き続きの登場。このルールでは玉も「マネ禁」の例外でないことに留意して解いてください。

117-14はたくぼん氏の「石囲いシリーズ」の最新作。132手の長丁場ですが、途中で諦めず粘り強く取り組んでください。

解答要項

第117回分解答締切:2020年2月15日(土)
宛先：**k7ro.ts@gmail.com** (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ**k7ro.ts@gmail.com**へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

WFP作品展：年末年始の予定

来年1月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP作品展12月号の新規出題と来年1月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下のようになりますので、あらかじめご承知ください。

	12月	1月	2月
第117回	再掲	再掲	結果
第118回		出題	再掲
第119回			出題

ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule112.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【二玉詰】(または【多玉詰】)

複数の玉を使用する。

どの玉に対しても王手放置は禁手。

王手を外せなければ詰み。

→初出；第 41 回 WFP 作品展 (WFP45 号)

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【受先】

受方から指し始める。

【Imitator】(■または I)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

・駒を打ったときは動かない。

・Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75 号「Imitator の紹介」

【中立駒】(「」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 白玉への王手は反則。白玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61 号「中立駒の紹介」

【協力白玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【点鏡】

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

・行き所のない駒の禁則は適用されない

→本誌初出：第 108 回 WFP 作品展(WFP127 号)

【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかっている位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも 1 手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(補足)

1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない

2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる

3) 白玉を取らせる手は反則

→参照：WFP122 号「All-In-Shogi の紹介」

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力白玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【駒全マネ禁】

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手では詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。

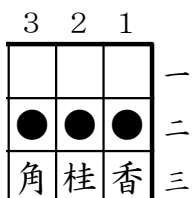
・成駒と生駒は別種の駒として区別する。また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

→参照：WFP132 号「駒全マネ禁詰の紹介」

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

飛び越すことは可能。



例えば左図で、
 12 香や 11 香成は不可。
 22 角や 11 角は不可。
 11 桂成や 31 桂成は可。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【最悪詰】

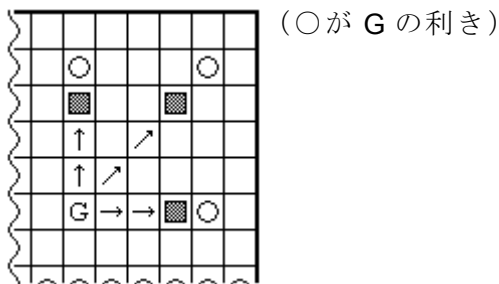
攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クイーンの上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

【レトロ -m+n 手】

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1)特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2)協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数 of 逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【透明駒】

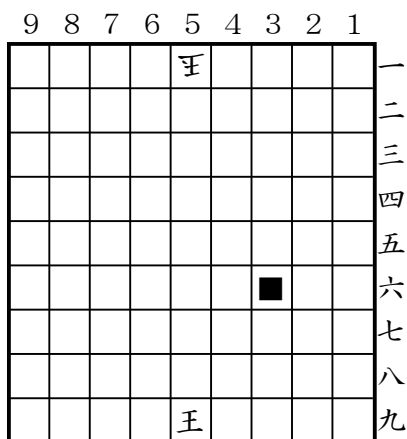
位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83号「透明駒の紹介」

<第 117 回>解答締切:2020年2月15日(土)

- 117-1 占魚亭氏作
協力自玉詰 6手

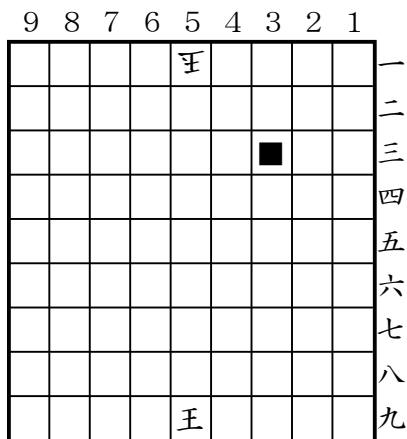


持駒 n角

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

- 117-2 占魚亭氏作
協力自玉詰 6手

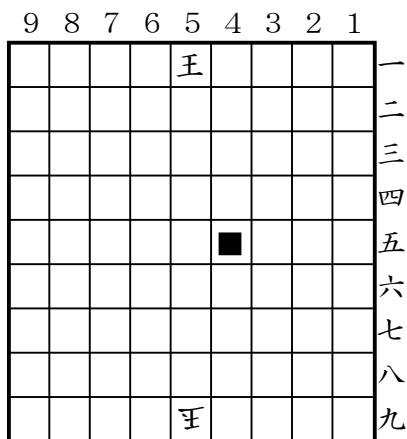


持駒 n飛

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

- 117-3 占魚亭氏作
協力自玉詰 6手



持駒 n角

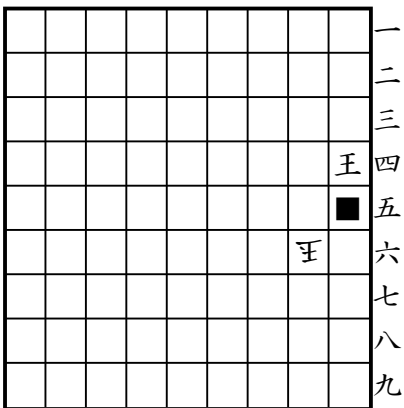
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 117-4 神無太郎氏作

協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



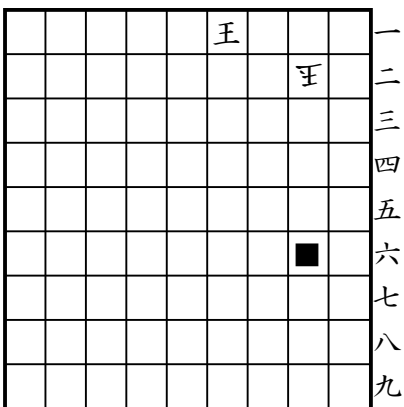
持駒 銀

※■:Imitator

■ 117-5 神無太郎氏作

協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



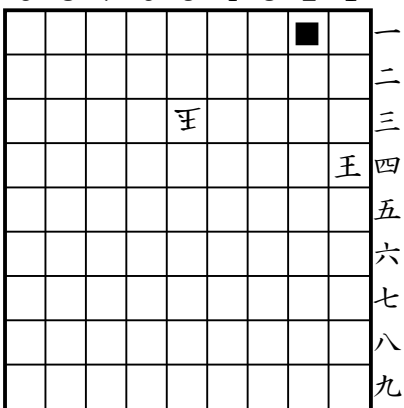
持駒 飛

※■:Imitator

■ 117-6 神無太郎氏作

協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



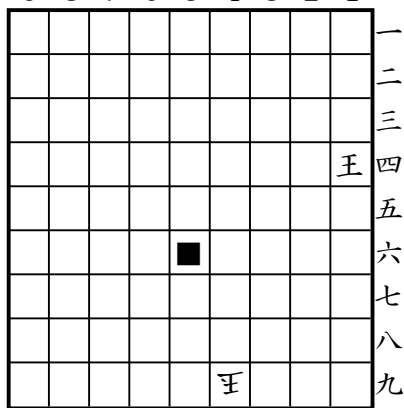
持駒 飛

※■:Imitator

■ 117-7 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



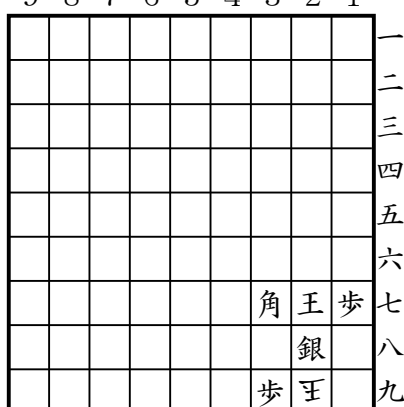
持駒 金

※■:Imitator

■ 117-8 高坂研氏作

協力詰 1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



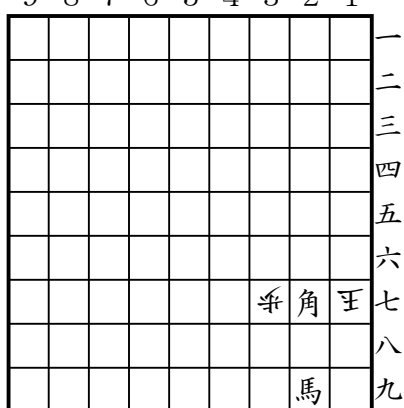
持駒 なし

※透明駒：攻方 1 枚、受方 0 枚
逆算可能であることを仮定

■ 117-9 高坂研氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

※透明駒：攻方 1 枚、受方 1 枚

■ 117-10 高坂研氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
							飛		四
							香		五
								王	六
									七
									八
				角					九

持駒 飛香

※透明駒：攻方 0 枚、受方 1 枚

■ 117-11 上谷直希氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
							王	銀	二
									三
							銀		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※透明駒：攻方 2 枚、受方 2 枚

■ 117-12 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
							王	歩	七
							角	香	八
							香	銀	九

持駒 なし

■ 117-13 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
							王		四
									五
									六
									七
									八
							王		九

持駒 飛金

■ 117-14 たくぼん氏作

協力自玉詰 132手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								飛	二
							●	●	三
							●	●	四
							●	王	五
							●	角	六
							●	●	七
							●		八
							●	歩	九
							●	桂	九

攻方持駒 なし

受方持駒 歩

※●:着手不可、不通過

以上



ちょっと早い2020年 年賀詰作品展

今年も終わりに近づき恒例のちょっと早い2020年賀詰作品展。昨年は6名でしたが、今年は4名の参加となりました。推理将棋も含めてお屠蘇気分ではちょっと手ごわいものもあるようですが、年末年始にお考え下さい。

解答送り先：

たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

解答締切：

2019年1月18日(土)

1番 神無太郎作

協力自玉スタイルメイト6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			■						一
								玉	二
							王		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

※■：Imitator

玉以外はすべて中立駒

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【Imitator】(■)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【中立駒】(「」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

【ヒント】

昨年に続きいきなりのImitatorで怯む方も多くいると思いますので大盤振る舞いのヒントです。後手玉は4手目13玉と動き、最終図は元旦になります。

2番 Pontamon 作 (2020/1/2 余詰修正) → (1/3 余詰がありましたので再修正)

新春特別ルール 12手

はじめに

3種の大駒が連続で一直線に並んで詰む最短は縦並びの9手詰。12手詰ともなると、縦、横、斜めでの詰み形が出てきます。

会話

「御隠居、明けましておめでとうございます」「おめでとう。新春特別ルールで指し初めと行くか」

「どんなルールにしますか？」

「めでたい新春なんだから、初王手で詰ますこと」

「詰まない王手は禁止ですね。」

「あと、着手は新しい地点へ指すこと」

「ちょっとそれは無理ではないですか」

「それじゃ、今年は令和2年だから、同じ地点の着手は2回まで許すことにする」

「特別ルールはそのくらいでいいですかね」

「何を言う、今年は十二支最初の子年なんだから十二支に因んで、わしゃ12手で詰めてみせるぞ」

「では、よろしくお願いします。」

:

「予定通り、この12手目の初王手で詰みだ」

「振り返ると、歩頭への着手が4回ありましたね」

「振り返ると、特別ルールの効果で1回着手の筋は4つ。あと、歩頭への着手が4回ありましたね」

「最後は、後手の強い大駒3種が一直線に連続して並んでいて壮観な眺めじゃ」

「今年のオリンピックではメダル独占の表彰式を見たいですね」

条件

- ・12手目の初王手で詰み
- ・終局時、後手の3種の大駒が一直線に連続して並んでいた(「後手の」を追加しました)
- ・歩頭への着手が4回
- ・同じ地点の着手は2回まで
- ・1回着手の筋は4つ(追加)

推理将棋第123回出題(12/15 修正)

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第123回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2020年1月10日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の題名は「推理将棋第123回解答」でお願いします。

推理将棋第123回出題 担当 Pontamon

2019年最後の出題では第123回に因んだ特集を組めました。全て、1筋、2筋、3筋の着手が条件になっています。

初級は担当からの9手詰。1筋、2筋、3筋の着手地点がひとつずつ指定されています。

中級は渡辺秀行さんの11手詰。123回用に投稿いただきました。1筋、2筋、3筋の順の着手で2周します。

2019年のトリの上級は上谷直希さんの12手詰。後手の着手は1筋1回、2筋2回、3筋3回の6手です。

■本出題

123-1 初級 Pontamon 作

123 と言えば 9手

情報満載なのでサラッと解いてしましましょう。

123-2 中級 渡辺秀行 作

いち、に、さん 11手

最終手は玉に密着した王手ではありません。さて、どの駒種で詰めましょうか。

123-3 上級 上谷直希 作

ワン、ツー、スリー 12手

後手着手は1~3筋だけなのに詰みに関与する6手目の角着手をするには？

123-1 初級 Pontamon 作

1, 2, 3 と言えば 9手

「1, 2, 3 と言えば『1, 2, 3, ダー』以外に何が思い浮かぶ？」

「2桁にして12、23、31の一巡。1, 2, 3の3つの数字を足しても掛けても6、123は3で割り切れて商は41」

「いろいろ出たね。今日の9手で詰んだ対局は、3つの大駒による着手がそれぞれ1回、2回、3回で、12、23、31の3地点への着手は異なる大駒の種類だったんだ」

「最初は2種類しかない大駒だから、少なくともひとつは駒成したってことか」

(条件)

・9手で詰み

・3つの大駒による着手がそれぞれ1回、2回、3回

・12地点、23地点、31地点へ着手した大駒は異なる駒種

123-2 中級 渡辺秀行 作

いち、に、さん 11手

「いち、に、さん、いち、に、さん」

「何を言っているんだい？」

「隣の将棋が6手目から1筋、2筋、3筋、1筋、2筋、3筋、の順に指して詰んだよ」

「そんなこともあるんだね」

「最後の11手目は駒の利きのない地点に指していたよ」

(条件)

・11手で詰み

・6手目~11手目は、1筋、2筋、3筋、1筋、2筋、3筋への着手

・最終手は駒の利きのない地点への着手

123-3 上級 上谷直希 作

ワン、ツー、スリー 12手

「12手目の小駒の手で詰みですね」

「後手の着手は1筋に1回、2筋に2回、3筋に3回。きれいな配分です。不成が複数回登場するトリッキーな対局と感じましたがいかがでしょうか」

「6手目の角の手が強烈でした。その角は後の手順で不動でしたが、だからこそ光る1手とも言えるかもしれませんね」

(条件)

・12手目の小駒の手で詰み

・後手の手は1筋に1回、2筋に2回、3筋に3回

・6手目に着手した角は後の手順で動かなかった

・不成の手が複数回あった

第116回WFP作品展の結果を報告します。

今回の出題は全12題（ツインが一つあるので実質13題）。解答者数は6名。全題正解者なし。解答の内訳は以下の通りです。**116-7**は条件1)2)を満たす解を準正解（1点）、全条件を満たす解を正解（2点）として計上しています。また、前回同様**116-4**は通りルール設定上の問題があるため、正式には解答募集の対象としていません。下記の表ではその解答を除いた点数（計）と含めた点数（計'）を両方記載しています。

〔第116回WFP作品展成績〕（敬称略）

◎:正解(2点) ○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12a	12b	計	計'
たくぼん	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	11	12
一乗谷酔象	-	×	-	-	○	○	◎	-	-	○	○	○	○	8	8
占魚亭	○	○	○	○	-	-	-	○	○	-	○	○	-	7	8
変寝夢	-	-	-	-	○	○	-	-	-	×	○	○	○	5	5
はなさかしろう	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	2	2
Pontamon	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	1	1

難解と思われた Imitator 絡みの作品には、たくぼん氏と占魚亭氏が正解。完全な正解が出るかどうか危惧された**116-7**にも、はなさかしろう氏が見事正解を入れました。解答者数は少なかったものの、正解者ゼロの作品はなく、解答陣の健闘が光ります。

■ 116-1 占魚亭氏作（正解2名）※実質1名

二玉協力詰 4手（受先）

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
				■		王			五
									六
									七
									八
			王						九

持駒なし

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

• 二玉詰（または多玉詰）

複数の玉を使用する。

どの玉に対しても王手放置は禁手。

王手を外せなければ詰み。

→初出；第41回WFP作品展（WFP45号）

• 受先

受方から指し始める。

• Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

（補足）

• 駒を打ったときは動かない。

• Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75号「Imitatorの紹介」

• 中立駒（「罫」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【解答】

62n 飛 65n 飛生[I58] 45n 角 81n 角成[I94]
まで 4 手

(詰上り)

											9	8	7	6	5	4	3	2	1		
																					一
																					二
																					三
																					四
																					五
																					六
																					七
																					八
																					九

持駒 なし

【作者のコメント】

試作。二玉詰+Imitator は発展の余地はなさそうです。

【解説】

二玉詰の定番、玉の両取り。
ただし、両取りになり易そうな 39n 飛ではなく 65n 飛が本当の決め手です。しかも、直接両取りを掛けるのではなく、Imitator の移動を挟

んで両取りを実現するという構成です。

作意は 2 手目に両取りが掛かったように見えますが、そうではありません。Imitator のせいで 69 玉は取れないのです。（そもそも初手 62n 飛が反則でないのも Imitatorのおかげです。）

そこで一旦中立角の合駒をして 35 玉への王手を防ぎます。その後これを動かして改めて両取りを実現するのです。この後、中立角を大きく動かして、Imitator を上段に運び、65n 飛の縦横の利きを同時に有効化します。最終手は動かした中立角を 45 に戻されないため「成」限定。いわゆる逆流防止の「成」です。

他の紛れも見ていきましょう。

初手 63n 飛はもちろん限定打。61n 飛だと最終手で 26 玉[I86]、63n 飛なら 27n 馬[I27]の受けが生じます。

2 手目は不成限定。成ってしまうと、最終手で 54n 龍や 56n 龍があります。

3 手目から「45n 香 41n 香成」は 5 筋への合駒で不詰。初手の紛れもそうですが Imitator があると、両取りが両方受かるケースは結構あるのです。

作意は「Imitator は盤端に」という格言通りの手順ですが、どの手にも深い紛れがあり、解くのはかなり大変だったと思います。

詰めやすい「二玉詰」と、詰めにくい「中立駒」。この組み合わせからは独特の手順が生まれそうですが、本局では Imitator の存在感が強いので、どうしてもそちらの方に目が向いてしまいますね。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

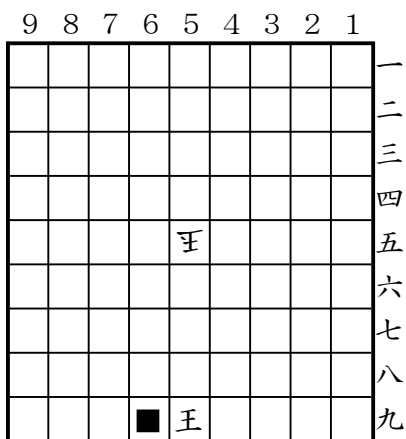
頭 2 手の効果が最終手で現れる。
初手 6 1 や 6 3 の紛れが面白い。

たくぼんさん

両王手の詰上りだけど 1 手前に戻される受けが強力なので悩んだが、最終手で成って戻されたら王手になるように考えて道が開けました。
初手 61 でも行けそうに思いましたが最後 26 玉[I86]という受けがあるんですね。

■ 116-2 占魚亭氏作（正解 2 名） ※実質 1 名

協力自玉詰 6 手



持駒 n 香

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

【ルール】

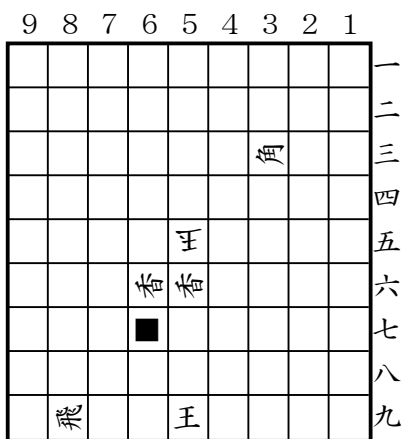
・協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

【解答】

58n 香 56n 角 同 n 香 [I67] 66n 香打
33n 角 89n 飛 まで 6 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

3・4 手目が肝。

n 角を動かす筋 (当初はこの筋の予定でした) に嵌って、実質正解者なしになるかも。

【解説】

玉同士が向かい合っていて、持駒は中立香。普通なら中立香の王手は自玉への王手にも

なるので王手すらできない形です。Imitator があるからこそ、王手ができるわけですね。

中立香の王手に合駒するとして、問題はそれを取るのか、開き王手をするのか。

開き王手は Imitator が動いたときに中立香が自玉へ王手を掛けてしまうので、ほぼ無理です。となれば、合駒は取るしかありません。とはいえ、香打・合駒・同香で 3 手も費やして大丈夫なのでしょうか？

心配ご無用。九段目の飛打一発で自玉は詰んでしまうのです。

それが 33n 角の王手を防ぐ 89n 飛。

その前の 4 手目 66n 香が一石二鳥で、89n 飛の縦の動きを封じ、68 玉の逃走に備えています。

本局は Imitator を使って中立駒の動きを制限する手が多く登場します。詰上りで Imitator がないと、55 玉には 33n 角による王手が掛かっていることになりすし、59 王には 89n 飛と 56n 香による両王手が掛かっていることになります。それぞれ一つずつ減っているわけですね。「諸刃の剣」である中立駒も、Imitator を上手く使えば「片刃の剣」にできるのです。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

手順のほとんどが打でびっくり。
全手順打は面白そう。

たくぼんさん

66n 香が上手い手。本当に詰上りが読み難いので (詰上りの局面で詰んでいるのかどうかも分かり難い) 大変です。

一乗谷酔象さん (※誤解)

頭の成香は強力。

☆一乗谷酔象氏の解答は「58n 香 56n 桂 同 n 香 [i67] 58n 香成 [i69] 67n 桂 54 玉 [i68] まで」というもの。一瞬余詰かと思ったのですが、最終手に 67n 杏 [I77] という受けがあります。

「中立駒は中立駒を取れる」ので詰んでいないわけですが、錯覚しやすいところですね。小駒の利きは上下非対称なので、手番によって利きが変わることも要注意です。

■ 116-3 占魚亭氏作（正解 2 名） ※実質 1 名
点鏡二玉協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				王	王				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金2

【ルール】

• 点鏡

55 に関して点对称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

1) 行き所のない駒の禁則は適用されない
本誌初出: 第 108 回 WFP 作品展 (WFP127 号)

【解答】

25 金 44 玉左 35 金 75 飛 55 金打 まで 5 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				王	王				三
				飛	金	金			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

試作。

二玉詰 + Imitator と同じく発展の余地はなさそうですが数作完成したので、次回以降も投稿を予定しています。

【解説】

本局も二玉詰の定番、玉の両取り。

とはいっても、「25 金 85 飛 45 金」のような手順では 65 に何か受けられます。そこで鍵となるのが 55 の利用。点鏡ルールの「聖域」である 55 に打てば、性能変化を免れるので、55 金を決め手にすることができます。

実際、作意の最終手で 55 金を同飛と取ることはできません。75 飛は金の性能なのです。もちろん「同玉」とすることもできません。飛の性能になった 35 金が利いているからです。

内容とは関係ありませんが、2 手目「44 玉左」の棋譜表記が面白いですね。金や銀などの棋譜表記を流用したのですが、複数の玉を使う二玉詰ならではの現象です。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

最終形点鏡で実際に駒を入れ替えてみると (35 を飛 75 を金) 普通の詰め上がりではある。

たくぼんさん

対打ち出来ない 55 金打を狙えばいいと分かっていてもなかなか難しかった。

■ 116-4 占魚亭氏作 (作意解 2 名) ※不詰

点鏡 All-in-Shogi

協力自玉スタイルメイト 4 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							王		七
									八
							王		九

持駒 歩

【ルール】

• 協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト (王手は掛かっていないが合法手のない状態) にする。

■ 116-5 変寝夢氏作（正解3名）

駒全マネ禁協力白玉詰8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
王										二
										三
										四
										五
										六
										七
									王	八
										九

持駒 金香

【ルール】

●駒全マネ禁

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

- ・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手ではか詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する。
また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

→参照：WFP132号「駒全マネ禁詰の紹介」

【解答】

19香 27玉 18金 16玉 28金 81香
93王 91香 まで8手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

皇	皇									一
										二
王										三
										四
										五
									王	六
										七
								金		八
									香	九

持駒 なし

【作者のコメント】

2手目81香は禁手だがら、開き王手にしな

ければならない。

【解説】

香の王手に香で返す。

字面だけ見ると「駒全マネ禁」ではできない手順に思えますが、開き王手を使えばそれが可能というのが本局の主張。王手する駒と、動いた駒が別ならば、王手する駒で受ける手が可能なのです。

本局はこの原理を利用して、6手目から受方が香を連打して、あっという間に攻方玉を詰ませてしまいます。まるで王手放置のような手順ですが、「駒全マネ禁」では王手駒と同種の駒の着手を続けている間は玉を取られる心配はありません。

これは次局でも見られる応用範囲の広い手筋で、遠隔操作的な手順を実現することができます。

【短評】

たくぼんさん

6手目81香の局面で読みを打ち切ってしまいますね。

そうかも1回香打ちが出来るんですね。

一乗谷酔象さん

双方入玉型に使いにくそうな香。

たったの8手で香の王手4回。

■ 116-6 変寝夢氏作（正解3名）

駒全マネ禁協力白玉詰12手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
王			●							五
	●						●			六
●						●	角			七
		ス					歩	皇		八
								王		九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※●:石 (着手不可、不透過)

■ 116-7 一乗谷酔象氏作（正解 2 名、準正解 1 名）
 推理将棋『不動駒のない熱戦』

「34 手目の初王手で詰まされちゃった。初手に歩を突かない作戦がまずかったかな」
 「これが投了図か。盤上に不動駒が 1 枚もない！大熱戦だったね」
 「この将棋、不成の手はなかったよ。こっちは金、玉、銀の順に続けて動かして困ったけどよくなかった。相手の金を寄る手がいい手だったな」
 「玉の堅さに負けたんだね」
 「相手は 7 回連続で馬を動かし、2 回連続で桂を動かしてきた。巧くやられたよ」

【条件】

- 1) 34 手目の初王手で詰んだ
- 2) 終図盤面に不動駒はなかった
- 3) 初手は歩以外の駒を動かした
- 4) 先手は金、玉、銀の順に続けて動かした
- 5) 後手は金を寄った
- 6) 後手は 7 回連続で馬を動かした
- 7) 後手は 2 回連続で桂を動かした
- 8) 不成の手はなかった

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

18 香 42 銀 76 歩 31 金 33 角成 41 玉
 43 馬 99 角成 61 馬 89 馬 83 馬 79 馬
 93 馬 57 馬 79 金 47 馬 68 玉 37 馬
 48 銀 27 馬 37 桂 49 馬 23 飛成 87 飛成
 71 馬 97 香成 13 龍 93 桂 53 龍 33 桂
 63 龍 17 香成 73 龍 67 龍 まで 34 手

(詰上り)

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		馬				王	玉			一									
						將				二									
科		龍						科		三									
										四									
										五									
		歩								六									
卒			龍				桂	卒		七									
			玉			銀		香		八									
		金				金				九									

攻方持駒 金銀歩9
 受方持駒 金銀桂香歩8

【作者のコメント】

- 終図不動駒なしの最短手数探索問題です。
- 不動駒なしになるのは単純に考えれば、40 枚の駒を 1 回ずつ動かす 40 手ですが、1 手使って相手の不動駒を取っても不動駒は減っていきます。
- ここで、自陣から 1 手だけ動かす手で敵陣の駒を取ることができれば、1 手で 2 枚の不動駒が減ります。敵陣まで届く足の長い駒は、飛角香の計 8 枚ですが、向かい合う香は見合いなので飛角香各 2 枚の計 6 枚が使えます。結局、手数は $40-6=34$ 手になり、原理上これが最短です。
- 角は敵陣に届くのが比較的容易ですので馬を使って邪魔な歩を取り、飛香が 1 手で敵陣の不動駒を取る手を目指します。
- 先手玉の詰形が難しく、後手方 77 角成から馬を動かす手順ではうまい形が思いつきませんでした。99 角成から遠回しに馬を使う手順を発見し、条件付けしました。
- 条件 1)2) を満たす手順がわかれば準正解扱いで構いません。

【解説】

設問を見て「将棋の駒は 40 枚なのに、34 手で不動駒なしだって？」と思った方は多いはず。盤上で移動しなくても、取られた駒は自動的に駒台に行くので「不動」にならないというのが、6 手短縮できる理由です。

そして「34 手」というのは、実戦初形から不動駒が生じない理論上の最短手数です。本作はこのような条件下で、先手玉が詰む最短手順を求めよという問題です。ということで、解答の扱いは、条件 1)2) を満たす解を見つけた場合に準正解、すべての条件を満たす場合に完全な正解としました。

さて、具体的に解図の流れを説明しましょう。効率が良いのは互いに馬を作って相手陣の駒を掃除していく手順なので、馬と龍による詰上りが有力です。そして飛を使えるのは飛頭の歩が消えた後だということを考えれば、後手の馬を 27 馬から 49 馬と活用するルートも見えてくるでしょう。

更に 49 馬での詰型を考えると、先手玉は 68 で、67 龍による詰型が浮かびます。このとき 67 龍が駒取りになるようにするには、67 歩を残す

必要があり、後手が馬を 79 から 57 へ動かしていくルートも決まります。以上で、手順の大枠が定まりました。

このように書くと簡単に解けそうに思えるかもしれませんが、これは解説用に要点だけを取り出したため、そう見えるだけです。実際に解図するとなると、どこに着目すべきか迷って、筋に入るのは難しかったと思います。

筆者が作意手順で特に面白いと感じたのは初手の 18 香です。

馬を作りたいので初手 76 歩としたいところですが、それは条件 3)「初手は歩以外の駒を動かした」で禁止されています。その代わりに手が、何とも形容し難い 18 香。後手の馬に取られる駒以外の駒を動かす必要があるわけですが、この時点では意味がまったく分かりません。意味がないようで実は深い意味がある、味わい深い着手だと思います。

馬に取られない駒を動かすという意味では、初手 48 銀も考えられなくはないですが、それは条件 4)に引っ掛かって困ります。条件 1)2)を満たす解を見つけた後も、単なる辻褄合わせの作業に終わらせないよう、条件設定もよく考えられていると思います。

本作の正解者・準正解者ははなさかしろう氏と、Pontamon 氏のお二人。はなさかしろう氏は、すべての条件を満たす完全な正解でした。お二人共、作意通り 68 玉・67 龍・49 馬の詰型での解答でしたので、まずはこの詰上りを想定できるかどうか、解図の鍵になったのだろうと思います。

【短評】

たくぼんさん (※無解)

結構考えたのですが解けませんでした。

Pontamon さん (※準正解)

条件 1)、2)、5)、8)の条件だけ満たしている手順なので、1)と 2)クリアの準正解の 1 点狙いです。

この手順と詰み形だと先手着手の余裕がないので条件 3)の初手が歩以外は実現不可能だし、93 の馬を動かすために△87 飛成を挟む必要があるので条件 6)の後手馬 7 回連続着手も途中で挫折になって、正解達成は無理そうです。

と言っても、他の詰み形は思い浮かびません。

[Pontamon 氏の解]

▲76 歩、△42 銀、▲33 角成、△31 金、
▲43 馬、△41 玉、▲53 馬、△52 金、
▲63 馬、△99 角成、▲73 馬、△89 馬、
▲83 馬、△79 馬、▲93 馬、△57 馬、
▲79 金、△47 馬、▲68 玉、△87 飛成、
▲71 馬、△37 馬、▲81 馬、△27 馬、
▲37 桂、△17 馬、▲23 飛成、△39 馬、
▲21 龍、△49 馬、▲13 香成、△97 香成、
▲11 龍、△67 龍 まで 34 手

はなさかしろうさん

楽しかったです。設問が明快でした。

不動駒がない、という要件から、34 手が最短なこと、飛角香それぞれ 2 枚の計 6 枚でまだ動いていない駒を取る必要があることが導かれ、かなり強い枰が課せられますので、枰を満たしつつ詰ます方法に的を絞ることができます。

条件 1,2 のみで見つけた詰み形が作意に合致したのが幸運だったのかもしれませんが、条件 3 以降の手順限定は流石に巧みでした。長編は敬遠されがちですが、最短手数であることで紛れも少なく、解き心地の良い理想的な一問だったと思います。



■ 116-8 神無太郎氏作（正解 2 名）

協力自玉スタイルメイト 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
■			王						二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
								王	九

持駒 n 角

※ ■: Imitator

玉以外はすべて中立駒

【解答】

63n 角 81n 角打 63n 角生 [I74] 81n 角 [I92]

61n 角 83n 桂 まで 6 手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

	角	角							一
■			王						二
	桂								三
									四
									五
									六
									七
									八
								王	九

持駒 なし

【解説】

盤上の駒を増やすスタイルメイト。

初形と最終形を比べてください。双方の玉も Imitator も元の位置のまま、盤上に中立駒が 3 枚加わり、それでスタイルメイトになっています。何とも不思議な作品ですね。最終形で攻方玉と 3 枚の中立駒がどれも動かさないことを確認してください。

手順を見てみましょう。

初形は既に Imitator が盤端にいる形。18 地点に何か利かせれば、自玉は動けなくなるので、初手 63n 角は自然ですが、後の手順が問題です。

今度は、自玉ではなく持駒の中立角の処理を考えてみましょう。持駒の中立角は「61n 角 83n 桂」とすれば動きを止めることができます。これに気付けば正解に一歩前進です。

63n 角の筋と 61n 角の筋を両方実現するのが、正解手順の冒頭 4 手。3 手目中立角で中立角を取る手は「中立駒は中立駒を取れる」というルール設定を利用したのですが、局面の差分に着目すると 81n 角が消えたように見えるのが面白いところです。盤上の駒を増やすので抵抗感がありますが、これで 18 地点に利かすことができました。この利きは最終手 83n 桂で一時的に消えますが、18 王 [I91] とすると利きが復活するので自玉は動けません。

結局、双方の玉は不動のまま、動いたのは中立駒と Imitator のみ。その Imitator も元の位置に戻って、初形から盤上に駒が増えただけのスタイルメイトになりました。動きを制限しやすい Imitator の性質を効果的に利用した作品だと思います。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

3 手目キルケか 6 3 の駒がそのままになっているような錯覚を起こした。自玉周りに何も無いのに動けないのは不思議。

占魚亭さん

n 角と Imitator のスイッチバック。

116-9 は長距離移動だが、本作は短距離移動。

たくぼんさん

19 王の周りには何も無いのにスタイルメイトになる不思議。端の ■ と角の利きは結構動きが制御出来ると分りました。



■ 116-9 神無太郎氏作（正解 2 名）

協力自玉スタイルメイト 6 手

						王			一
								■	二
									三
									四
									五
									六
									七
						王			八
									九

持駒 n 飛

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

【解答】

28n 飛 22n 飛打 28n 飛生 [118] 22n 飛生 [112]
51n 飛 13n 桂 まで 6 手

(最終形)

				飛		王			一
							飛	■	二
								桂	三
									四
									五
									六
									七
						王			八
									九

持駒 なし

【解説】

前局と同じ主題を飛で実現したもの。初形に中立駒を 3 枚追加すれば、それが最終形になっているという明快なストーリーが良いですね。

前局と同様、同種の中立駒を取る手が出てきますが、本局は飛でそれを実現しており、飛のダイナミックな動きが強く印象に残ります。

なお 22n 飛は、42n 王と動く手を防ぐ「迷路封鎖」だけでなく、51n 飛が左に動くのを防ぐ Imitator の「壁駒」の役割も果たしています。前局の 81n 角より多くの働きを担っているわけですね。一般的に飛は角より利きが強いので、そ

の動きを抑え込むには Imitator をより有効に利用する必要があります。

そんな理屈はさておき、本局は前局と見事な対をなしており、前局の解答者は類推で解けるようになっています。初形は全然違いますが、内容的にはツイン（組局）と呼んで良い 2 作だと思います。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

次は飛車版。

頭 4 手がさらに不思議な手順に感じた。

占魚亭さん

n 飛と Imitator のスイッチバック。

116-8 と併せて、とても上手い組曲だと思います。

たくぼんさん

太郎さんのことだから今度は飛バージョンと推測。最後の n 桂打ちまで見事なまでの対比ですね。

■ 116-10 尾形充氏作（正解 2 名）

最悪詰 17 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【ルール】

• 最悪詰

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

【解答】

28 銀 16 玉 52 馬 25 桂 17 銀 同玉
18 歩 16 玉 17 歩 同玉 53 馬 44 桂

同馬 16 玉 17 馬 同桂生 28 桂 まで 17 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

〔主な変化〕

- ・ 初手
18 歩は同玉、25 香、54 角、同馬、同桂、45 角、19 玉、28 銀まで
- ・ 3 手目
17 銀は同玉、18 歩、同玉、25 香、54 銀、同馬、19 玉以下 55 馬、28 合、同馬まで又は 18 馬、同香不成、28 銀まで

〔主な紛れ〕

- ・ 12 手目
44 角は同馬、16 玉、17 馬、同桂不成、34 角で手数超過

【作者のコメント】

攻方銀歩を受方 25 桂に変換。
ポツンと残る 62 桂が馬位置限定と変化処理に大活躍しています。

また、正式コメントとは別に、114-6 及び本作について補足させていただきます。

2 作とも結果として「合駒を動かす」手順になりましたが、出発点は「合駒を取らない（あるいは直ちに取らない）」です。

最悪詰の合駒については、拙作でもそれを評価していただいたことがありあまり言いたくないのですが、他ルールと比べると見た目ほど困難度は高くないと感じています。

目的達成手段と抵抗手段の違いなのでしょうか、受方は出したいくて出しているのです。

一方攻方の対応は、これまでの創作経験から、受方の手に乗るようでも出された合駒を素直に

取るのが最善の粘り、このルールでの棋理と捉えています。

ならばそれに逆らってみることで何か面白い手順が出来るのではないかと、というのが創作の動機です。

エレガントな表現には限りがあるような気もしますが、掘り下げる価値はあると考えています。

【解説】

小さな密室に閉じ込められた玉。うっかり王手を掛けるとすぐに詰んでしまいます。

例えば初手に 53 馬や 62 馬とすると、26 桂の逆王手を食らいます。これには同馬とせざるを得ないので 3 手詰の早詰です。

19 歩を消せばその筋を回避できるだろうという目論見も成功しません。初手 18 歩とすると、今度は同玉と取られ、9 手詰の早詰です。

28 銀～52 馬は、馬筋をずらしてこの 2 つの詰手順を回避するのが目的です。受方は合駒するしかありませんが、場所と種類の選択肢が多くて迷います。作意は 25 桂なのですが、この意味は収束になって判明します。

一度は早詰筋を回避したものの、攻方の手段は限られています。銀と歩を捨てて時間稼ぎをすることはできますが、王手が尽きるとまた馬を使わざるを得なくなります。

11 手目 62 馬と欲張ると 16 玉と逃げられて早詰。ここで 4 手目が 25 桂合だった理由が判明します。続く 17 馬に「同桂不成」と応じるためだったわけですね。

さて、11 手目 53 馬で桂を取ることを避けた攻方ですが、受方は 44 桂合で強制的に桂を渡します。これは取らざるを得ず、前述の手順と同様に 17 馬～同桂不成の収束に入ります。

本局のような半開放型密室（玉は外に出られないが他の駒は出入りできる密室）は、最悪詰を作るのに適した舞台装置です。皆さんも小型の半開放型系密室と合駒を組み合わせ、最悪詰の創作を始めてみませんか？

【短評】

変寝夢さん（※誤解）

一見詰まし方に悩むが、初手 5 三馬が逆王手利用であっけなく詰むことがわかり解決、のはずだったがいろんな応手が見え四苦八苦。この手順も全く自信がない。

☆変寝夢さんは初手 18 歩から 7 手目 28 銀とした手順前後の解答。解説でも述べた通り、初手 18 歩は早詰なので、これは変別解となります。

たくぼんさん

紛れも読まされるが 27 香を動かして早く詰む。捨合いの 25 桂を最後不成で跳ばして見事な収束でした。

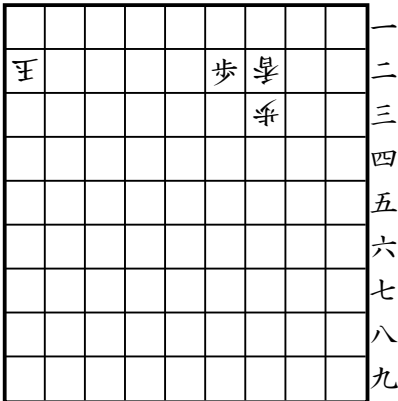
一乗谷酔象さん

最悪詰らしい駆け引きのある攻防。
44 桂の中合が延命を許さない決め手。

■ 116-11 変寝夢氏作 (正解 4 名)

対面協力詰 21 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

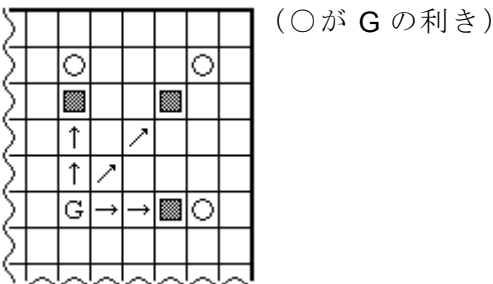


持駒 G
※G:Grasshopper

【ルール】

• **Grasshopper (G)**

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(補足)

- 飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- パオと違って飛び越さないと動けない。

動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。

- 成ることはできない。
- 2 つ以上の駒は飛び越せない。

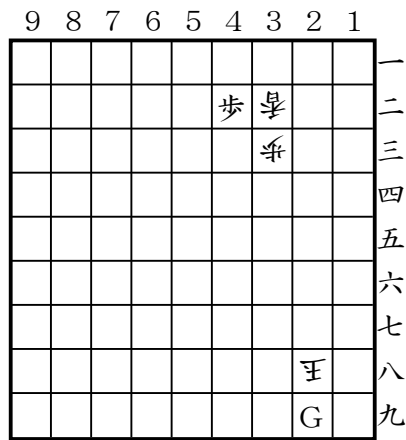
• **対面**

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【解答】

93G 94 玉 95G 96 玉 97G 98 玉
99G 21 玉 22G 43 玉 44G 23 玉
41G 22 玉 23G 24 玉 25G 26 玉
27G 28 玉 29G まで 21 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

1 0 手目 2 3 玉として下段に向かうと 2 8 G 2 9 玉となり不詰。

4 3 玉からの折衝で玉位置の段を変えなければいけない。

【解説】

対面では弱い駒の王手が有効。特に桂は強力で、八段目の玉は頭桂 1 枚で詰んでしまいます。

G (Grasshopper) も同様に対面では強力ですが、G には更に良い点があります。桂で玉頭から王手すると、玉が斜めに逃げてそれ以上王手が続きませんが、G なら本局のように玉が逃げられた後も王手を続けることができるのです。対面ルールだと単騎で「G 追い」ができるわけですね。

これでもし盤上に他の配置がなければ、この G 追いを続けるだけで 7 手詰となりますが、さすがにそんなに簡単ではありません。32 香がジャンプ台になって 2 筋に舞台を移し、第二ラウ

ンドが始まります。そのまま2筋でG追いをしたくなりますが、同じように追うと、玉を八段目に持って来られないので詰みません。いったい、どこで間違えたのでしょうか？

よく見ると右上辺には32香以外にも2枚の配置がありますね。これが謎を解く鍵なのです。

これを利用した10手目43玉～14手目22玉が本局の謎解きとしてのハイライト。巧妙な入替え操作で段を一段ずらすのです。

段の調整が済んだ後は、今度こそ2筋でのG追いの収束。追って行った先にはジャンプ台はなく、今度こそ頭Gでの収束となります。

単調になりがちな単騎追いに、ちょっとしたスパイスを利かせることで、本局は楽しい趣向作に仕上がっていると思います。

【短評】

占魚亭さん

上田さん風味。楽しくて面白かった。

たくぼんさん

楽しい鬼ごっこ。
こういう趣向作をもっと見たいです。

一乗谷酔象さん

しつこく付きまとうストーリー攻め。
駒配置から右上辺での収束があるのかと思ったが、折り返すための仕掛けだった。



■ 116-12 変寝夢氏作（正解 a)4名、b)3名）

a) レトロ協力詰 -4+1手

								王	金	一
					煙			科		二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 なし
受方持駒 飛
※42角は中立駒

b) レトロ協力詰 -4+1手

								王		一
					煙			科		二
										三
							金			四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 なし
受方持駒 飛
※42角は中立駒

【ルール】

•レトロ -m+n 手

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。
(補足)

- 1)特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2)協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【解答】

a)32 玉(+21 龍) 61 龍 41 玉 51n 角 /
33n 角成 まで -4+1 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			龍		王			龍	一
							科		二
						馬			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			龍	馬	王			龍	一
							科		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(逆算図からの手順)

42n 角生 32 玉 21 龍 同玉 まで 4 手

(詰手順) 19 金 まで 1 手

b)31 玉 42n 角持 41 玉(+31 龍) 21 龍 (+31n 角)
/53n 角成 まで -4+1 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王			龍	一
								科	二
				馬					三
						龍			四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王	馬		龍	一
								科	二
							龍		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(逆算図からの手順)

31 龍 同玉 42n 角 21 玉 まで 4 手

(詰手順) 53n 角成 まで 1 手

【作者のコメント】

向きを変えての開き王手が狙い。

【解説】

中立角が混じったレトロ協力詰。使用駒制限があるので、「合駒なし」の詰上りを狙うことは予想できるでしょう。

実際、作意もそうになっています。a)は左からの開き王手、b)は右からの開き王手。開き王手を行うのは中立角なので、最終手は「角成」として、逆流を防ぎます。

このように1手詰では左右の対比を表現していますが、逆算手順は左右を逆にしたものではありません。

逆算図から出題図に至る手順を見ると、a)は開き王手から龍捨て、b)は駒の精算から角打ち。全然違う手順ですね。レトロ協力詰は逆算パートと、詰手順を求めるパートが分かれていますので、本局のように一方で共通性を強調し、他方で相違点を強調するという表現法が可能です。

解図難易度については、a)の方が易しいと思っていました。b)のような俗な駒交換は、逆算で考えるのは難しそうに見えるからです。ただ、解答者の短評を読むと必ずしもそうではないようで、解答者の感性の違いを感じました。

【短評】

占魚亭さん（※a)のみ解答）

a)の順に引きずられて、b)が全く見えず……。

たくぼんさん

a)こちらはすぐに見えました。

b)こちらはなかなか手順が見えませんでした。

n角を持駒にする手が盲点にでした。

一乗谷酔象さん

a)角筋と玉の位置関係で妙に詰ませにくかった。

b)中立駒は取る順はわかりやすかった。

レトロは異なる手順で1手詰は同じ筋、巧妙なツイン。



【総評】

変寝夢さん

imitator より最悪詰の方が手がつけやすい。

これが imitator が2枚にでもなったら、どうなるのだろう（笑）。

☆こういうことを口に出すと、誰かが作ってきそうな気がします。複数 Imitator の登場を今から覚悟しておきましょう。

たくぼんさん

最近長編推理将棋（最短手順探索）がなかなか解けず、根気が失われているのがよく分かります。今川さんのようにもっと根気強く・・・を来年は心がけます。

☆筆者もそろそろ気力・体力の限界を感じるようになってきました。毎月、原稿作成もぎりぎりの状況が続いています。

今まで本作品展では出題数に具体的な上限を設けていなかったのですが、来年から月12題の上限を目安に出題数・出題時期の調整を行いたいと思います。また、掲載作が一部の作者に偏らないよう、上限を越えた場合は、発表数が少ない作者の作品を優先的に掲載するような調整もしたいと思います。常連の作家の皆さんには、作品掲載まで少し待っていただくこともあると思いますが、本作品展の安定的な運営のため、どうかご協力をお願いします。

以上



Fairy of the Forest #61 結果発表

- 2019年09月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2019年11月15日：投稿締切
- 2019年11月20日：出題
- 2019年12月15日：解答締切
- 2019年12月20日：結果発表

- 2019年09月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2019年11月15日：投稿締切
- 2019年11月20日：出題
- 2019年12月15日：解答締切
- 2019年12月20日：結果発表

- 結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)
(○は全題正解者)

- 神無七郎、○占魚亭、
- たくぼん、変寝夢

■ 61-01 たくぼん

協力詰 11手

持駒 なし

										一
										二
						と				三
		玉								四
	飛									五
										六
			銀	ス						七
										八
				玉						九

持駒 なし

78 銀 68 玉 77 銀 67 玉 76 銀 56 玉
 65 銀 55 玉 54 銀 64 玉 63 銀成 まで 11
 手

(詰上り図)

										一
										二
				金	と					三
		玉	玉							四
	飛									五
										六
				ス						七
										八
										九

持駒 なし

占魚亭—受方持駒制限に気付かなかったり、金を取る筋に嵌まったり……(苦笑)。

変寝夢—金を取ることに拘り苦戦。銀と玉がクロスする瞬間が気持ちいい。

☆74 金は歩とかでもよいのですが、金にしたことにより紛れが生じていますね。

作者—受方持駒なしなので紛れは少なく、狙いを見破れば瞬殺されそうです。

☆89 飛以下飛で追うのは、合駒を稼げないので盤面 74 金を取るくらいしか手がなく、詰みに届きません。

七郎—銀の滝登り。最初に 53 との意味を考えたので、飛を動かす紛れを避けられました。

☆53 とが上部で待ち構えていることに目を向ければ、銀の単騎追いに思い到ります。攻方の着手は銀のみで、最終 63 銀成まで飛の横利きを生かした詰上りとなります。



■ 61-03 たくぼん

協力詰 43手 (修正図)

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					銀	銀	歩	金	四
				金	桂	桂	香	香	五
				歩		王	桂	角	六
				香		料			七
				香		歩			八
				玉			歩		九

持駒 なし

27 角 47 玉 36 角 38 玉 47 角 27 玉
 28 歩 18 玉 36 角 29 玉 47 角 38 歩
 同角 18 玉 27 角 29 玉 18 角 38 玉
 27 角 47 玉 38 角 36 玉 47 角 26 玉
 27 歩 同玉 28 歩 18 玉 36 角 29 玉
 47 角 38 歩 同角 18 玉 29 角 17 玉
 18 歩 16 玉 38 角 27 桂 同角 26 玉
 38 桂 まで 43 手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					銀	銀	歩	金	四
				金	桂	桂	香	香	五
				歩			王		六
				香		料	角		七
				香		桂	歩	歩	八
				玉					九

持駒 なし

作者—すいません、今気付いたのですが投稿図に攻方 14 金が脱落しておりました。15 香がフリーになっており 27 手の早詰がありました。酒井さん、解答者の皆さん申し訳ありませんでした。

☆15 手目から 29 角、17 玉、18 歩とし、以下この歩で玉を追っていけば (途中 26 玉、27 歩が必要ですが)、13 玉に 23 銀(桂)成迄にて詰みませぬ。誤図の指摘者は変寝夢さんだけでしたが…。

【余詰解】

37 歩 同玉 49 桂 36 玉 27 角 47 玉
 38 角 36 玉 47 角 27 玉 28 歩 18 玉
 36 角 29 玉 47 角 38 歩 同角 18 玉
 19 歩 17 玉 18 歩 26 玉 27 歩 16 玉
 17 歩 15 玉 16 歩 14 玉 23 銀生 13 玉
 22 銀生 12 玉 23 桂成 同玉 33 桂成 12 玉
 23 成桂 同玉 13 銀成 32 玉 33 銀成 21 玉
 22 成銀左 まで 43 手

占魚亭—角繰りに少し悩みました。桂 2 枚消す所は上手いですね。

☆この解は出題時の不備によるものなので、余詰として扱います。実際は、37 歩から始めてももっと短い解が成立しますが、誤図である以上は仕方ないですね。

作者—初手 37 歩が強烈な紛れで、同玉や 47 玉は作意と同様な手順で 45 手の唯一解となります。欲張らないのが正解です。

☆27 角からの角追いが見えているだけに、いきなり駒を取る手は考えにくいですね。14 金脱落のため、上記の余詰解はありましたが……。38 歩は受方に歩を入手させるとともに、3 手目 38 角を防いでいる意味もあります。38 歩の代わりに受方持駒を歩にすると、作意解以外に 3 手目 38 角以下の同手数解も成立してしまいます。

七郎—19 手目 39 歩の紛れに誘われましたが、それを避ければ収束まで一直線。趣向的な角の動きが楽しめる作品でした。

☆手拍子に歩を打つと、後で 1 歩不足に陥りませぬ。角の回転追いを繰り返す中で、桂馬を入手し、その桂を使って詰め上げませぬ。

☆全体の構成とポイントは、以下の通り。

[初手~14 手目]

38 歩合を取り、1 歩を入手ませぬ。27 歩合が二歩禁で出来ない点は要注意です。

[15 手目～26 手目]

24 手目、玉に 26 桂を取らせるのが急所です。

[27 手目～34 手目]

28 歩から 18 玉まで、7～14 手目の 8 手と同じ手順が再現されます。

[35 手目～最終手]

それまでの 27 角から 29 角と手を変え、収束に入ります。18 歩～38 角で 27 桂合を入手し、その桂を 38 に打てばジ・エンド。

変寝夢—これ 14 金抜けてますね。攻方が 26 桂を持駒にする過程が見事。

☆玉方を取らせた桂馬を合駒させて回収するのが見所。角の動きが微妙に変わるところも魅力的です。

【総評】

七郎—今回は 61-02 にちょっと苦戦しました。次回は作品で参加できるよう頑張ります。

☆ご投稿を期待いたします。

たくぼん—誤図での投稿は申し訳ない次第。次回はしっかり確認して投稿します。

☆これは、選題時点ですぐ気付かなければいけませんでした。当方のチェックの甘さもお詫び申し上げます。

変寝夢—実は密室物が大の苦手です。

☆以前もおっしゃっていた記憶が……。狭い所で、かえって混乱しやすいのでしょうか？

Fairy of the Forest #62 課題発表

■ 2019 年 12 月 20 日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」

□ 2020 年 02 月 15 日：投稿締切

□ 2020 年 02 月 20 日：出題

□ 2020 年 03 月 15 日：解答締切

□ 2020 年 03 月 20 日：結果発表

■ 課題発表

作品および作者不足で、SOS 状態が続いています。手数は問いませんので、何とぞ作品をお寄せください。

(投稿先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

推理将棋第121回出題解説

推理将棋第121回解説 担当 Pontamon

10月出題の第121回は21名から解答いただき、全員全問正解という快挙でした。ヒントが大甘ヒントだったのかもしれませんが。

121-1 初級 Pontamon 作
トレッキー作の修正 9手

「投稿作の条件は問題ないけどトレッキー丸出しの会話は変更してよ」
『トランスワープでボグキューブが突然現れた』は削除
「わかった」
『セブン・オブ・ナインが同化』は『9手詰みの7手目が同か!』
「なるほど」
『シールドを上げたか。抵抗は無意味だ。同化する』は『8手目は駒を直進させて粘ったけど、詰まされた手も同か!』
「了解、亜空間通信終了。エンゲージ!」
「君もトレッキー?」

(条件)

- ・9手で詰み
- ・7手目と9手目は同の手
- ・8手目は駒を直進

出題のことば (担当 Pontamon)

同が付く手を2連続で指すパターンを整理しよう。

追加ヒント

22の馬が連続同馬で2段目を寄って行きま

す。

推理将棋121-1 解答

▲76歩、△34歩、▲22角成、△52玉、▲51角、△32銀、▲同馬、△42金、▲同馬 まで9手

(条件)

- ・9手で詰み
- ・7手目と9手目は同の手 (7手目▲32同馬、9手目▲42同馬)
- ・8手目は駒を直進 (8手目△42金)

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞	角			科	皇	一
	遊			王	馬				二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 金銀

攻め方の最後の2手がどちらも"同"の手となると思い浮かぶのは6手詰手順。推理将棋では無駄合いが有効なので6手詰はありませんが推理将棋の紹介や解説では必ず触れられる6手の手順があります。それは、初手から▲76歩、△34歩、▲68玉、△88角不成、▲58金右、△95角で、詰将棋なら△95角の王手に対して▲86歩や▲77桂で頑張っても95へ打った角が△同角とすれば合駒の意味がないので6手目の時点で詰んでいるというものです。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞		丞	爵		皇	一
	遊			王					二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	馬		歩	三
						歩	角		四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 桂歩

参考1図は、先後を逆にして▲15角から▲24同角の次の最終手は22で成った馬で▲33同馬としてみた手順ですが、玉の退路を塞ぐ△52金右や△52飛の手が出来ていないので詰みません。

参考1図の手順：▲76歩、△34歩、▲22角成、△42玉、▲15角、△24歩、▲同角、△

33 桂、▲同馬

3手目に取った角を5手目に打って、その角で7手目に▲同角ができる角の打ち場所はそれほど多くはありません。▲55角と打って、△44歩、▲同角、△33桂、▲同馬は左右逆にした参考1図の二番煎じなので失敗します。2段目へ角を打っても、1段目や3段目は初期配置の駒が居るので次の手番で▲同角を指すには4手目に後手の協力が必要になります。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
皇	科	爵	帝	角		爵	科	皇	一	
	飛			王			馬		二	
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三	
							歩		四	
									五	
		歩							六	
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七	
							飛		八	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九	

持駒 金

参考2図は4手目に△52玉として、▲62角、△51金左、▲同角とした局面ですが、この後、後手が駒を動かして▲同角や▲同馬とする手はあるものの王手にはなりません。△32銀、▲42金だと詰みになりますが、"同"の着手の2連続にはなりません。

でもこの図を見ていると、左の金銀が無くて42へ金を打つ代わりに馬でも詰みの形になっていることに気付くでしょう。51地点での▲同角で金を取るのではなく、4手目の△52玉で空いた51地点へ5手目に▲51角とすれば、後手の金銀が2段目へ上がったところを▲同馬の連続で42地点へ進むことができます。8手目は駒を直進させる手の条件があるので、6手目からは▲32銀、△同馬、▲42金、△同馬で詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「自家用車のナンバーに1701 (エンタープライズの登録番号) を付けるほどのトレッキーではありませんが、スタートレックファンなので会話に取り入れました。」

斧間徳子「3手目までの手順と8手目の42金はほぼ確定と考えると、4手目は54歩か52玉のほぼ二択となる。易しいが、手順・条件ともすっきり仕上がった良問と思う。」

■はい、易しいはずだったのですが、難しかったとのコメントも。

のくせに「52玉から51角のアシストが思いつきにくく、かなり悩みました。」

■早い解答だったので「かなり」と言っても悩んでいたのは短かったようですね。

RINTARO「52玉51角の形に気付かず、結構考えました。」

■「結構」に「かなり」。慣れている詰将棋に比べて、思いのほか時間がかかったという感じなのかな。

占魚亭「『スタートレック：ピカード』の配信開始が楽しみですね (訳：今回、いちばん時間がかかりました)」

■いちばん時間がかかりました⇒会話がわからなくて.... ですかね。(笑)

はなさかしろう「へええ。なんとなく動かしていると解けますが、この条件でこの順しかないんですか。会話は…わかりません (笑)」

■修正後の会話と箇条書き条件だけ見てください。9手目の連続の同着手で詰むのはこれと122-1です。

ミニベロ「巧みな条件付けで、全て知っているはずの9手を40分考えさせられてしまった。」

■「結構」や「かなり」は、1時間未満、30~40分くらいのことなのかな。

諏訪冬葉「▲53角と打とうとしてうまくいかず、ためしに51に打ったらあっさり解決。」

■42の馬を支えるのは53角と51角の二択になります。

ほっと「同○の連続という条件が珍しいのか。」

■9手では、同○の連続で詰めるのが珍しいんです。

渡辺「詰形の発見に苦勞。難しかった。」

■すんなり解けるので大丈夫だと思ってましたが、手こずると122-1の作意手順を先に見つけてられているかもしれないのが心配の種。

渡辺（追加コメント）「トランスワープでボーグキューブが突然現われた」は「角を打った」ですね。この条件があると随分解きやすかったかも知れません。問題文の解釈も難題だった。スタートレックを一通り調べました。」

■想定していた状況は、後手陣へ突然現れた3手目の▲22角成だったのですが、角打ちと考えるといいですね。でも「角打ちがあった」の条件追加は9手では甘やかし過ぎかも。

NAO「直進するのは玉に近い金しかありません。」

■直進の条件は△32金、△42銀の手順前後回避のための条件。

小山邦明「8手目を駒の直進」で金銀を動かす順番を確定させるうまい条件設定。」

■やはり、そう思いますよね。

S.Kimura「トレッキーは分かりませんでした。ボーグキューブが角なのは分かりました。同馬が後手の駒と同化するというのも面白いなとえですね。」

■トレッキーは「スタートレック」シリーズの（熱狂的な）ファンのことです。

山下誠「5手目、角をどこに打つかを考える問

題でした。」

■飛の横利きを遮ってもらう△52玉があって角の打ち場所が決まります。

ジェシー「5三角の筋を延々と考えてしまいました。」

■飛の横利きが残るので▲53角は失敗します。

飯山修「飛車の効きを遮りかつ42に利かす唯一の場所の発見問題だけど初級としては簡単ではなかったのは私だけ？」

■難問だったとの感想が多かったです。

神在月生「51角がある9手(笑)。飛の横利きを消し、42の支え駒を打つ場所を空ける、玉の協力に感謝。」

■確かに、玉の着手が一番の働き方改革。（時短で終わらせる？）

原岡望「馬角の強力な協力で仕留めた」

■取ったのが角なので使うしかないという説も。

変寝夢「締め切り前ヒントで助かりました。52玉～51角が阿吽の呼吸」

■ヒント後だと、残っている着手はこれらの2手だけ。

緑衾「62に玉が逃げるのがなかなか防げませんでした。」

■ヒント投入でもそこだけは考え処として残しました。

たくぼん「51角と下から打つのがいいですね。1つの駒で連続駒取りは馬以外は無理そうですね」

■122-1を出題中なので連続駒取りについてはノーコメント（笑）。

正解：21名

斧間徳子さん のくせにさん RINTARO さん
占魚亭さん はなさかしろうさん ミニベロさん
諏訪冬葉さん ほっとさん 渡辺さん N
AOさん 小山邦明さん S.Kimura さん
山下誠さん ジェシーさん 飯山修さん 神在
月生さん 津久井康雄さん 原岡望さん 変寝
夢さん 緑衾さん たくぼんさん

1 2 1-2 中級 Pontamon 作
51角がある10手 10手

「不成なく10手で詰んだ棋譜だよ」
「51角の着手があったんだね」

(条件)

- ・10手で詰み
- ・51角の着手があった
- ・不成なし

出題のことば (担当 Pontamon)

51角はどちらの着手なのかはすぐに分かる
はず。急がば回れ。

追加ヒント

先手は後手飛が6手目に成れるように協力し
てから角を入手して51へ打ちます。

推理将棋 1 2 1-2 解答 担当 Pontamon

▲76歩、△32飛、▲33角成、△52玉、▲22
馬、△37飛成、▲38金、△同龍、▲51角、
△49金 まで10手

(条件)

- ・10手で詰み
- ・51角の着手があった (9手目▲51角)
- ・不成なし



©2019 MAJESTY

詰上り図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞	角	丞	爵	科	皇	一
				王			馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
			歩						六
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	七
						龍	飛		八
香	桂	銀	金	玉	丞	銀	桂	香	九

持駒 歩

51角の着手と言われると、先手が▲76歩、▲
33角不成、▲51角不成の5手目に実現可能で
す。その方針で指してみても、後手は△32飛、
△37飛成、△39龍のはてるま手筋で詰めてみ
たのが参考1図です。

参考1図

後手の持駒：銀歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞	角	丞	爵	科	皇	一
				王					二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
			歩						六
歩	歩	龍	歩	歩	歩		歩	歩	七
			金	金			飛		八
香	桂	銀		玉		龍	桂	香	九

持駒 歩

参考1図の手順：▲76歩、△32飛、▲33角
不成、△52玉、▲51角不成、△37飛成、▲
58金右、△77角成、▲68金上、△39龍 まで
10手

確かに詰んでいるのですが、条件では「51角
の着手」なのにこの手順だと▲51角不成なの
が気になります。条件を再確認してみると「不
成なし」でした。つまり3手目は▲33角成で
なければいけなくて、△52玉の次に51への着
手をするると▲51馬となり条件を満たしませ
ん。

参考2図

後手の持駒：角歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	馬	馬	龍	科	皇		一
				王					二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
		歩						歩	六
歩	歩		歩	歩	歩	龍	歩		七
			金	金			飛		八
香	桂	銀		玉		銀	桂	香	九

持駒 歩

それでは、51角の着手をしても不成や成が付かない後手が△51角を指せばどうでしょう？参考2図は、3手目の▲33角成を△同角で取りながら△51角へ移動する準備をし、△52玉のあとに△51角を指したものです。

参考2図の手順：▲76歩、△32飛、▲33角成、△同角、▲58金右、△52玉、▲68金上、△51角、▲16歩、△37飛成 まで10手

確かに△51角の着手は実行しているのですが、そのために手数を使ったので△39龍と指す手数がなくなってしまいました。

先手の角も後手の角も51角を指せないのであれば、どうしたら良いでしょう。それは角を取って、持ち駒の角を51へ直接打つ手順になります。3手目の▲33角成に△52玉と王手をかわした後に▲22馬で角を取り、次の手番で▲51角を指すことができます。33の馬が動いたので6手目は△37飛成で7手目に▲51角と打つと、残り手数は3手。はてるま手筋の後手はあと△39龍とする1手で十分なのに2手余っています。一方、先手は、▲58金右と68地点を埋める着手の2手が必要なのに1手しか残っていません。何処の手順を修正すれば良いのでしょうか？

1手戻して6手目は△37飛成までの局面で考えてみると、先手も後手も残りは2手ずつ。先手はそのうちの1手は▲51角を指す必要がありますが、7手目に指すと失敗しました。ということは先手の最終手である9手目に▲51角を指すこととなります。先手は7手目の残り1

手だけで、後手は37に龍が居る状態から2手で詰める必要があるものの、はてるま手筋での詰みではありません。正解は7手目▲38金、△同龍、▲51角、△49金での詰み形でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「もっと早くに指せると思った51角ですが、結局、先手の最終着手の9手目に指すしかないの少しは苦勞するかも」

斧間徳子「最初は51角の意味付けが謎で、どこから手を付けてよいか戸惑うが、とりあえず76歩、32飛から始め、不成がダメなので22馬～51角打かなと追っていき解決。謎めいた簡素な条件で時間差の38金まで入った傑作。「51角の着手があった」という奇抜な条件に脱帽。」

■不成なしなので、先手が取った角を51へ打つしかなく、後手は角を取られて使えないとなると必然的に2手目△32飛の筋が出てくるはず。出題の際、「10手の易問」と書きましたが、取っ付きがない条件なのでそれなりに楽しめたかと思います。

のくせに「こちらは素直に解けました。」

■なんせ「10手の易問」ですから。

RINTARO「51角を後手が指す手もしっかり考えました。1が伏線だったのかもしれないですけど、2が先に解けたので、あまり意味はなかったです。」

■先手だと51角不成で「不成」が付くけど不成無しの条件だし、後手だと△34歩、△33角、△52玉、△51角の4手掛かってしまっただけで残り1手で先手玉を詰ますことができません。(△34歩を突かずに、▲33角成に△同角としても、△51角の後に持ち駒角で2手での詰みはありませんね)

占魚亭「スマートな条件付け。」

■早く指定着手をしたくなる条件。

はなさかしろう「なるほど…この詰み形は手が余るからか、シンプルなのに推理将棋ではあまり見かけなかったように思います。主に待ち手を限定する2条件がぴったり決まっていますね。」

■実現しにくい無駄手を条件にするとシンプルにまとまります。

ミニベロ「まるで見えないのでヒント待ちしていたら、5日後に突然ひらめいた。条件が巧すぎる。」

■「10手の易問」のはずなのですが、相性が悪かったのでしょうか。

諏訪冬葉「まさか▲51角が無駄手だったとは。」

■詰まされる先手の方の着手ですし、地点が51ですので完璧に無駄手です。とは言いきれないか。たとえば、39龍のはてるま手筋で詰むのに32へ戻った龍が▲33角が邪魔していて、▲51角不成とすれば△39龍の1手詰みとか。ま、不成無し条件違反だし、手数も10手では足りないたとえでした。

ほっと「もし51角が後手の着手だとすると、51玉を動かす手が限定できなそうなので先手の着手に決め打ち。7手目38金が見えずに苦労。」

■いわゆる裏読みですね。

渡辺「8手に出来ない不思議な手順。」

■飛成の最短が6手目なので、8手ならはてるま手筋が可能ですが、そうすると無駄手を指す暇がありません。

NAO「手順の組み合わせに迷う攻防。金を取らせてから角打で解決。」

■出題のことばの「急がば回れ」です。

小山邦明「角での収束を考えたので難しかった。」

■▲76歩、△34歩、▲22角成のあと、22の

馬を△同銀や△同飛で取って、残り3手あるので角打ちから金でも取って金打ちなどが見えてきますが、51角を実現するためには玉移動が必須になるので後手の手数が足りません。

S.Kimura「前回と同様に2問目のヒントで情報が増えないという困った状況になりました。しばらく考えた末に、38金と金を渡せば、49金で詰むことに気付きましたが、もうひとひねりが足りないようです。」

■ヒントをみて「そこまでは分かってるんだよなあ」は、あるあるですね。

山下誠「先手が角を奪って角を打つ間に後手が使える駒は?と考えました。」

■はい、正解です。後手は飛を使います。

ジェシー「前問とは逆に、5一角をぎりぎりまで引っ張らないといけないのですね。」

■無駄手はいつでも指せます。と言っても急ぐと駄目。

飯山修「飛成後先手の有効手は1手だけ。となると、金の寝返りしかないか」

■条件クリアのための▲51角を置いて、じっくり考えると気が付く▲38金。

神在月生「お前にかまう気はないからどいてくれ。(32飛→33馬) 52玉・22馬で、51空け・角入手・飛直通の三つの目的を果たす。」

■推理将棋は先後での協力が大切。

津久井康雄「たったこれだけの条件で限定できているのが不思議に感じます。」

■「駒成1回だけ成駒着手なし」なんて条件より「不成無し」が簡素でいい感じ。たとえ条件数が同じでも印象は違いますよね。

原岡望「すかし詰めを警戒していたのに。」

■飛が出ていくときは忘れてはいけない一間龍。その警戒が報われる日は必ず来ます。

変寝夢「ソフト解答です。4手目52玉、5手目22への着手、6手目飛成、9手目51角、全手順通して不成なしで27万局面で35秒ぐらいでした。推理将棋の自玉詰は詰み形が浮かびにくいです。締め切り前ヒントで37飛成まではすぐだったが、38金～49金はまったく浮かばなかった。」

■▲38金、△49金はヒントでも黙っておくべき肝の部分。

緑衾「39龍までの筋だと思い込んでしまいました。」

■ヒント後の解図とこのことなので、6手目の飛成と聞くと39龍までのはてるま手筋が思い浮かぶのは仕方ありません。

たくぼん「先手の無駄手の限定方法ですが、少ない条件、文字数でお見事です」

■WFP同様に文字数制限は無いのに短過ぎ。

正解：21名

斧間徳子さん のくせにさん RINTARO さん
占魚亭さん はなさかしろうさん ミニペロさん
諏訪冬葉さん ほっとさん 渡辺さん N
AOさん 小山邦明さん S.Kimura さん
山下誠さん ジェシーさん 飯山修さん 神在
月生さん 津久井康雄さん 原岡望さん 変寝
夢さん 緑衾さん たくぼんさん

121-3 上級 上谷直希 作
飛車の遅速 12手

「12手で詰ませたよ。動いた大駒は僕の飛車だけだったかな。
僕の歩は5手目に取られたけど、僕が初めて歩を取ったのは10手目で、それは飛成の手だったよ。
ただ、成駒で王手を掛けている局面は登場しないまま終局したんだ」

(条件)

- ・12手で詰み
- ・動いた大駒は後手の飛車のみ
- ・5手目は歩取り
- ・10手目は飛成で、後手にとって初めての歩取

り

・成駒で王手している局面はなかった

出題のことば (担当 Pontamon)

後手の飛が成るために邪魔な歩を消す手順を考えましょう。

追加ヒント

とどめは45で取った桂を打っての吊るし桂です。

【余詰修正】

(会話)

修正前：10手目は飛成で、その手で僕は初めて歩を取ったよ。

修正後：僕の歩は5手目に取られたけど、僕が初めて歩を取ったのは10手目で、それは飛成の手だったよ。

(条件)

- ・5手目は歩取りを追加

余詰は、作意手順での手順前後と別手順での余詰でした。手順前後可能な指摘があった解答者も双方解としました。

推理将棋121-3 解答 担当 Pontamon

▲36歩、△44歩、▲37桂、△45歩、▲同桂、△42飛、▲48金、△45飛、▲49玉、△47飛成、▲59金、△37桂 まで12手

(条件)

- ・12手で詰み
- ・動いた大駒は後手の飛車のみ (6手目△42飛、8手目△45飛、10手目△47飛成)
- ・10手目は飛成で、後手にとって初めての歩取り (10手目△47飛成)
- ・成駒で王手している局面はなかった (12手目△37桂が唯一の王手)

詰上り図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	王	王	龍	科	皇	一	
							馬	二	
歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三	
								四	
								五	
					歩			六	
歩	歩	歩	歩	歩	龍	科	歩	七	
	角			金		飛		八	
香	桂	銀		金	玉	銀	香	九	

持駒 歩

本問には二つの課題があります。それは飛成するために邪魔な歩の消し方と、成駒での王手ができないのでどの駒で詰めるのかです。詰み形としては玉の隣の筋の7段目で飛成して、龍を支えにしての頭金が想像できます。銀だと龍がある反対側の銀腹へ逃げられそう。10手目に歩を取って飛成しなければいけないとなると、金入手は8手目までです。可能でしょうか？とりあえず、飛成までを考えてみます。

後手の飛が成る最短は6手目のはずですが本問では10手目。6手目に後手の飛が成るには、▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同飛、▲何か、△37飛成とか、▲76歩、△44歩、▲同角、△42飛、▲53角不成、△47飛成の手筋がありますが、本問では大駒着手は飛車だけとのことなので、先手角での協力はできないので別の方法で後手の飛先の歩を消す必要があります。

先手の歩を突いて行って、7手目に3段目で成って△同飛が8手目。これは"と金"なので歩を取ったことにはならず、9手目に7段目か8段目に歩を打って、△同飛成が10手目で初の歩取り且つ飛成の手になります。ただし、その飛成で王手を掛けてはいけませんので、飛成が8段目なら3筋か7筋、7段目なら3、4、6、7筋になります。しかし、後手の持ち駒は歩だけなので最終手で持ち駒の歩は使えません。

それでは、飛先の歩を2回突いて、飛を4段目に浮いてから筋を変えて7段目へ成る手順はどうでしょう。後手は自力で飛が出て行くので、先手は金を6段目まで出て行って、頭金で詰

めるための金を提供することもできそうです。参考1図はこの方針で頭金で詰めた局面なのですが、飛成する前に金を取る手が入ってしまったので飛成は12手目になり、14手で詰めた局面でした。

参考1図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	王	王	龍	科	皇	一	
							馬	二	
歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	三	
								四	
	歩						歩	五	
		歩						六	
歩	歩		龍	歩	歩	歩	歩	七	
	角			王		金	飛	八	
香	桂	銀		玉		銀	桂	九	

持駒 なし

参考1図の手順：▲76歩、△84歩、▲78金、△85歩、▲77金、△84飛、▲66金、△64飛、▲38金、△66飛、▲16歩、△67飛成、▲15歩、△58金まで14手

飛が出て行くのに邪魔な歩を消すための残る手筋は、先手の桂で後手の歩を取ってもらう手順になりそうです。参考2図は先手の桂で53の歩を取ってもらい、後手は5筋に振った飛で8手目に△同飛、10手目に△57飛成ですが、その10手目が王手にならないように9手目は▲58飛としておいて、11手目の▲66歩の協力によって12手目の△67桂で吊るし桂の形で詰みになります。頭金は手数が問題になりましたが、飛先の歩を取ってもらった桂を途中で入手できるのでこの吊るし桂で行けそうです。



©GOSGNAIKE

参考 2 図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	王	王	駒	科	皇		一
							馬		二
歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩		三
									四
								歩	五
		歩	歩						六
歩	歩		科	駒	歩	歩	歩	歩	七
	角			飛					八
香		銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考 2 図の手順：▲76 歩、△52 飛、▲77 桂、△14 歩、▲65 桂、△15 歩、▲53 桂不成、△同飛、▲58 飛、△57 飛成、▲66 歩、△67 桂 まで 12 手

解けたと思ったのですが、大駒着手は飛だけなのに先手も飛の手を指しているのも失敗です。

でも、参考 2 図を見てみると▲53 桂不成で歩を取って貰うまでにタイミングを合わせるために後手は 1 筋の歩を 2 回突いている無駄手がありました。この、2 回の歩突きを 6 筋でしていたら、▲53 桂不成の前の▲65 桂で 6 筋の歩を取って貰うことができるのに気付きます。初手から、▲76 歩、△64 歩、▲77 桂、△65 歩、▲同桂、△62 飛、▲何か、△65 飛、▲何か、△67 飛成 の 10 手で無事に先手の歩を初に取る手が飛成になっています。確定していない先手の 2 手で、▲68 金、▲69 玉としておいて、11 手目に▲59 金と寄れば吊るし桂の形にはなりますが、△77 桂では角が利いているので駄目。かと言って、▲56 歩からの△57 桂では手数オーバーです。89 の桂を跳ねて行ったために△77 桂で詰ますことができなかつたので、左右を反転して 29 の桂を跳ねて行く手順にすれば最終手△37 桂は先手に取られることはありません。

つまり、初手から、▲36 歩、△44 歩、▲37 桂、△45 歩、▲同桂、△42 飛、▲48 金、△45 飛、▲49 玉、△47 飛成、▲59 金、△37 桂 です。

作意順とは別の余詰手順は、▲76 歩、△84 歩、▲68 玉、△85 歩、▲77 玉、△84 飛、▲78 金、△54 飛、▲16 歩、△57 飛成、▲15 歩、△34 歩までの空き王手。

RINTARO さん、ほっとさん、NAO さんから解答をいただきました。先手の余裕手 2 手はお三方が申し合わせたかのように▲16 歩、▲15 歩でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

上谷直希 (作者) 「拙作が余詰だったとのこと、大変失礼いたしました。」

斧間徳子 (双方解) 「華麗な手順ですが、5 手目と 7 手目などで手順前後が利くのでこれは余詰め手順でしょうか？」

のくせに (双方解) 「85 歩を桂で取る筋をしばらく考え、どうしても 1 手足りず、37 を空ければ一石二鳥ということに気づきました。が、8 手目までの局面に手順前後がいろいろあります。条件は満たしていると思うのですが、別解でしょうか。36 歩 42 飛 37 桂 44 歩 48 金 45 歩 同桂 同飛...など」

■粗検、申し訳ありませんでした。

RINTARO (双方解) 「どこか間違えてますか?」「条件より、飛車先の歩を取るには桂しかなく、収束は吊るし桂の筋しかないと追ったところ、ぴったり詰みました。」

■最初の解答が△34 歩までの空き王手の余詰手順でした。ご指摘、ありがとうございます。

占魚亭 「「成駒で王手の局面なし」の条件を見落とし、76 歩 84 歩の筋を読んでいました。」

■成駒 (飛成時を含めて) での王手を許すと、いろいろ詰手順が出てくるようです。

はなさかしろう (双方解) 「3 条件でいろいろな余詰筋がぎりぎり成立しなかつたので、どうしたものかと、かなり楽しみましたが…手順前後が可能なので、この順は作意ではないのかも

しません。」

■大駒着手は後手の飛だけというだけでもキツイ条件なのに、後手の歩取りが 10 手目の飛成指定。それでも筋やとどめの駒の情報がないのであれこれ手順を楽しめます。

ミニベロ「8 7 飛成・6 7 飛成で翻弄される。そうだね。4 7 なら角の利きがないもんね。これに気付くのに 5 日。まあヒント前に解けたからよしとしよう。」

■12 手目△77 桂なら▲同角が指せます。

諏訪冬葉「飛車を生かすために左桂で歩を取っていたがうまくいかず、ためしに右桂を使ったらあっさり解決（初級でも同じようなこと書いた気が）」

■先手は角を使えるわけでもないのですが、ついつい調子で▲76 歩から始めると左桂の出番になってしまいます。

ほっと（双方解）「左桂を活用するとうまくいかないのが不思議。なお当初は余詰順しか見えぬ。」

■左桂を使って 7 筋や 8 筋辺りの手を検討していて、飛を出る筋を発見されたのですかね。

渡辺「素直すぎて余詰かと思いました。先に合駒が間に合うのはこの形のみ。出遅れたので 5 手目の歩取りを軸に考えて楽しめました。」

■余詰修正後だと、5 手目の歩取りが解図の糸口になりますね。

NAO（双方解）「桂の手を隠しつつ 45 で桂を取って 37 に打って詰ます構想。」

■後手の飛とどの駒を組み合わせるかを考えた時、桂香よりは金気を考えてしまいます。

小山邦明（双方解）「4 筋の玉での吊るし桂の収束形は大変面白い。5 手目と 7 手目の手順前後が可能なのが惜しかった」

■その手順前後にも気付かずに出題してしまいました。

S.Kimura「こちらも前回同様、余詰修正に助けられ、5 手目に歩を取る手から、桂馬を跳ねる手が浮かびました。この修正も痛いと思いますが、それほど修正が難しい余詰だったのでしょうか。」

■5 手目と 7 手目の手順前後だけではなく、▲48 金、△42 飛から開始しても成立してしまうため、5 手目に歩を取るという修正が必要になりました。「5 手目は桂」とは明かせませんので。

山下誠「最初に 8 7 飛成、次に 4 7 飛成の筋をずいぶん考えました。3 七に桂打のスペースを作るのがポイントでした。」

■87 飛成の筋は前担当の NAO さんが潰してくれていました。

ジェシー「大駒の利き縛りで詰める手筋は、推理将棋ではあまり見ない気がします。」

■何と言っても大駒が主役になることが多く、大駒の着手指定はあっても使う手を制限する条件は少ない気がします。大駒を使ってはいけない条件の究極としては、玉と歩だけの着手で 13 手詰なんてのがあります。

飯山修「こちらは先手の有効手 3 手を探す問題」

■桂渡しまでの▲36 歩、▲37 桂、▲45 同桂の 3 手、詰形にする▲48 金、▲49 玉、▲59 金の 3 手。ヒント後だと後者ですね。

神在月生「金銀は無理のようなので桂ネライ、10 手目初歩取りで、早々に 3 筋はあきらめ。余詰確認していないのでわからないが、条件削減はできないんですよ。」

■全ての条件はクリアしてください。そうでないと、手数条件だけクリアすれば 12 手詰全部が余詰になってしまいます。でも、わざと不要な条件を追加している場合もあるので、それだと解図の際には無視してもいい条件になります。（無視してもその条件は成立している必要はありません）

原岡望「トーチカを作って安心していたら桂を取られていたのをうっかりした。余詰気になります。」

■▲48 金がピンされているので▲同金とはできないのが辛い。

変寝夢「うーん、わからないや、と試行錯誤の上どうやら5手目は桂で歩を取ることはわかかったが、89玉に87竜77桂の形に決め打ってしまい苦戦。どうやら条件的に89に玉が行くことは不可能（竜の王手が必須な為）なので69玉はと考えた末、漸く初手36歩に行き着いた。6手目からは条件をつけてPCに検索させたら440万局面2分45秒で唯一解を出力。76歩から着手したがるのは悪いくせだなあ」

■解析が6手目以降だったので手順前後なしの唯一解だったのですね。

緑衾「ヒントを見てから解いてしまいました。難しかったのでしょうか。」

■5手目が歩取りの追加条件がない場合は結構難しいはずです。

たくぼん「桂での止めが分らず。ノーヒントだとかなりの難問でした。余詰順も考えてみましたが、そちらの方が難しく分りませんでした」

■上級のヒントは出し過ぎだったかな。

正解：21名

斧間徳子さん のくせにさん RINTARO さん
占魚亭さん はなさかしろうさん ミニベロさん
諏訪冬葉さん ほっとさん 渡辺さん N
AOさん 小山邦明さん S.Kimura さん
山下誠さん ジェシーさん 飯山修さん 神在
月生さん 津久井康雄さん 原岡望さん 変寝
夢さん 緑衾さん たくぼんさん

総評

RINTARO「今回は難易度高かったです。初級が難しかったです。3が余詰ではないかと思えます。」

■RINTARO さんからの余詰手順を見て愕然としました。（その後、作意順の解答もいただきました）

占魚亭「私的には、ちょうどいい難度でした。」

■予定変更で中級を易問と取り換えての出題でしたが、少し物足りなかったのでは？

諏訪冬葉「スタートレックは全く見ていませんが、この時期になるとスタートレックのテーマが恋しくなります。」

■バラエティとかクイズ番組とかでもBGMで使われますが、何かの記憶とリンクしているのかな。

渡辺「今回はどれも難しかった。」

■これは予想外のコメント。

NAO「121-3は担当のときに投稿いただき修正を重ねた作品だったが、余詰筋が残ってたまま引き継いでしまいました。作者とPontamonさんには申し訳ありませんでした。」

■「成駒の王手」という表現が気になったので修正していただきましたが、余詰筋は全く気づきませんでした。手順前後まで見逃していたのは新担当の責任です。

S.Kimura「余詰が出るたびに、その解も考えていますが、いつも分からないままです。こちらのヒントも欲しいぐらいですね。」

■余詰手順は結果稿での紹介で勘弁してください。

ジェシー「今月は追加ヒントが親切だったので、無事に全部解けました。」

■考え処を1つ残すくらいのヒント投入にしているつもりですが、今月は大甘でしたか。

飯山修「1番でひっかけり直前ヒント待ちを決め込んだ。すると2番3番は大甘の直前ヒントを見てからの推理となり随分楽をした。ヒン

トの匙加減は難しいですね」

■ 昔の DD++さんのヒント投入をみたら結構大甘なヒントだったようなので、レベルを合わせているつもりでした。今月は全解答者全問正解でしたから、もう少し歯応えを残すくらいの煮込みにしようかな。

神在月生「復活後のおもちゃ箱だけは、無欠勤 & 全解（正解ではない）を続けたい。」

■ 今後ともご愛顧をよろしく申し上げます。

津久井康雄「今月はいずれも追加ヒント無しではサッパリでした。どの手筋を使うのかに自力で気付くのはいつの日やら…」

■ 徐々に慣れていくと思います。

原岡望「7日に詰パラのメ切を乗りきったと思ったらすぐにおもちゃ箱のメ切とは。全部ヒントの助けを借りた。お手柔らかに」

■ 担当は詰パラが届いても推理将棋しかしないので締切は全く気になりませんが、推理将棋以外にも解かなければいけない問題を沢山抱えているのでしょうね。

変寝夢「試行錯誤して解を発見するのも楽しいですが、ソフトが一生懸命解図に取り組んでいる姿を眺めるのも同じぐらい楽しいです。解に近いところを検索している時は胸がドキドキしますし、解の部分のスルーしてしまった時は、原因が判明するまで何も手に着かないぐらい落ち着きません。親バカですね。

ソフト製作はある程度汎用性があるものを目指しています。

1 2 1 - 3 の 6 手目からは「;/実戦初形/-
82:43:37:29/盤面=42v 飛 36 歩 45 桂/持駒=歩/
手数=6/%協力自玉/非連続王手/駒指定<6:22v
角:28 飛:88 角/手指定=,4,47,飛,成,:=,6,,飛|角|
金|銀|桂|香|歩,,,」というコマンドを与えています。

雰囲気はわかって頂けると思います。」

■ 実戦初形から移動して無くなった駒の元地点、実戦初形との差異の盤上の駒と持ち駒、
[22v 角:28 飛:88 角]辺りは動かさない駒指定で
4 手後に 47 飛成（つまり 10 手目）のような

感じですかね。ソフトが解図している時、盤面表示されているのかな？

緑衾「今回はヒントを見てから解きました。それから、なんで正解者数なんて載せるんですかね（笑）」

■ 投稿、ありがとうございます。作図していて解図する時間が無くなった？

たくぼん「最近、頭が固くてなかなか解けませんでした。今月は優しいヒントで助かりました」

■ そう言われるとヒントの匙加減をどうしたらいいか迷ってしまいます。

推理将棋第 1 2 1 回出題全解答者： 2 1 名
斧間徳子さん のくせにさん RINTARO さん
占魚亭さん はなさかしろうさん ミニペロさん
諏訪冬葉さん ほっとさん 渡辺さん N
A O さん 小山邦明さん S.Kimura さん
山下誠さん ジェシーさん 飯山修さん 神在
月生さん 津久井康雄さん 原岡望さん 変寝
夢さん 緑衾さん たくぼんさん

第1回不詰展示会【作意発表編】

占魚亭

☆神無七郎さん、たくぼんさん、変寝夢さんから解答・コメントをいただきました。ありがとうございました。

【点鏡】55 に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。なお、行き所のない駒の禁則は適用されない。

【All-in-Shogi】双方とも自分の手番の時に相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手。
<補足>

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない。
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる。
- 3) 白玉を取らせる手は反則。

【協力自玉スタイルメイト】双方協力して攻方玉をスタイルメイトにする。スタイルメイトとは、王手は掛かっていないが合法手のない状態のこと。

※最終手に対して All-in-Shogi を適用しないルール設定です。

その1

点鏡All-in-Shogi

協力自玉スタイルメイト 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
									二
									三
									四
									五
				王					六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作意】

59v 飛、55 角、19v 角生(99v 角)、91v 王(11v 王)

まで4手。

最終形

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王									一
									二
									三
									四
									五
				王					六
									七
									八
				飛				馬	九

持駒 なし

【解説もどき】

点鏡と All-in-Shogi、2つのルールらしさを出すにはと考えた時、最初に思いついたのが本作の構成。派手な展開で、今回の3作の中で一番気に入っています。

協力詰か協力自玉詰で作るつもりでしたが上手いかなかったのがスタイルメイトに変更したわけですが、基本的なことを見逃して不詰という結果に……。いずれ協力詰か協力自玉詰で再チャレンジするつもりです。

【コメント】

神無七郎さん

誤植にしか見えない持駒なしの双裸玉。

All-in-Shogi と点鏡を組み合わせた効果が顕著に現れていますね。

手順も派手で、今回の展示会で一番面白い作でした。

たくぼんさん

端と55の地点だけを使う雄大な作品ですね。初めはしばらくあれ持駒なしで手がないじゃんと思ってしまいました(笑)

変寝夢さん

久しぶりに2時間ほど悩んでしまいました。

普段は30分で打ち切るの、面白く感じたのでしよう。

2手目5三玉や5五桂などの筋でいろいろ楽しませてもらいました。

その2

点鏡All-in-Shogi

協力白玉スタイルメイト 4手

									王	一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂

【作意】

79 桂、31 角、23v 角、31 飛まで4手。

最終形

									飛	王	一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

【解説もどき】

桂の性能が2度変化。これも2つのルールらしさをと考えた時に思いついた構成です。

【コメント】

神無七郎さん

白玉を人質にして 79 桂を縛る 31 飛。
でも、その前の2手の下準備が重要。
87 玉は不動ですが、角の性能を変化させた上、
21 への睨みを利かせる大活躍をしています。

たくぼんさん

なんだか不思議な感覚の手順。31 地点に角飛連打が見慣れないからか。

変寝夢さん

7九桂、3-X、2三桂、31Xまでと思ったのですが、2一玉で不詰ですね。
打った桂が点鏡でピンされる展開だと思ったのですが…。

その3

点鏡All-in-Shogi

協力白玉スタイルメイト 4手

											一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 角

【作意】

89 角、23 香、29v 香生、21 飛まで4手。

最終形

										飛	一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

【解説もどき】

3手目が狙い。21 に打って 29 に移動させたかったのですが、無理でした。頭2手が普通だし、前問と似た筋なので、イマイチなのは否めないか。

【コメント】

神無七郎さん

23 香～29v 香生がちょっとしたアクセントですが、前局と同じような筋なのでちょっとインパクトが弱いですね。

たくぼんさん

これも大技ですね。頭2手が普通だったのではなかなか気付きませんでした。

変寝夢さん

これは詰み形すらわかりません。8九角、2-Xかなと思いはしましたが、全然ですね。

【総評】

神無七郎さん

「目的(詰やスタイルメイト等)が達成できる場合は〇〇を適用しない」という除外条件を表す用語が欲しいところですね。

例えば「弱 All-in-Shogi」のようにルール名に「弱」を付けるのはどうでしょう？

☆「弱」をつけるのは個人的にしっくりきません。かといって、普通に「All-in-Shogi(Type B)」とするのもなあ……。何かいい案ありませんかねえ。

たくぼんさん

なかなか楽しく感心しました。次回も楽しみにしております。

☆楽しんでいただけでよかったです。第2回もよろしくお願いします。

変寝夢さん

「最終手に対して All-in-Shogi を適用しないルール設定です」と提示しているなら完全作ですが……。1問でも解けて満足です。次回も期待してます。

☆解答ありがとうございました。2問目、惜しかったです。第2回もよろしくお願いします。

第2回不詰展示会【展示編】

占魚亭

今月も不詰展示会を開催します。
 難度は前回と変わらないと思います(易しいかも?)
 コメントがありましたら、sengyotei@gmail.com までどうぞ(1月15日くらいまで)。

【点鏡】55 に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。
 なお、行き所のない駒の禁則は適用されない。

【All-in-Shogi】双方とも自分の手番の時に相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手。
 〈補足〉

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない。
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる。
- 3) 自玉を取らせる手は反則。

【協力自玉スタイルメイト】双方協力して攻方玉をスタイルメイトにする。スタイルメイトとは、王手は掛かっていないが合法手のない状態のこと。

※最終手に対してAll-in-Shogiを適用しないルール設定です。

その1

点鏡All-in-Shogi
 協力自玉スタイルメイト 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							王		三
									四
					王				五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

その2

点鏡All-in-Shogi
 協力自玉スタイルメイト 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
					王				六
									七
							王		八
									九

持駒 なし

その3

点鏡All-in-Shogi
 協力自玉スタイルメイト 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							王		七
									八
									九

持駒 なし

<余談>

妄想を広げ過ぎた感のある「伝承」ですが、さすがにすべてが実現できる訳でもなさそうなことがはっきりしてきました。来年の詰将棋全国大会の頃には一般公開できるよう現実路線で準備しようと思います。

ところで来年の詰将棋全国大会はいつ開催されるのでしょうか。いつもとは違うらしいですね。「伝承」準備にそうそう影響するとは思いますが、予定がはっきりしていると安心できます。

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【自玉詰】

攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

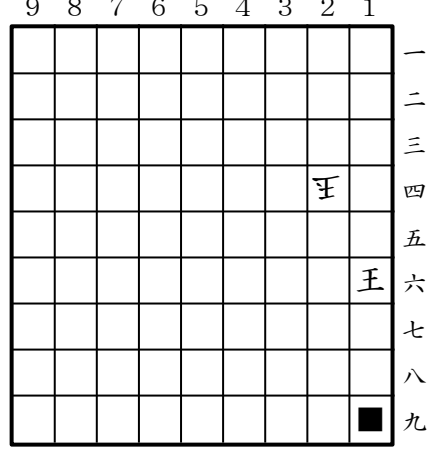
[補足]

駒を打ったときは動かない。

<問題>

【3-1】

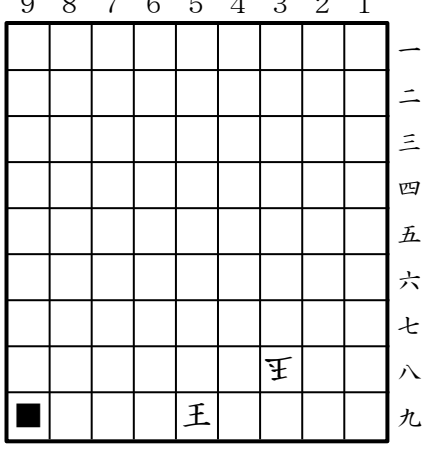
協力自玉詰 6手



持駒 桂

【3-2】

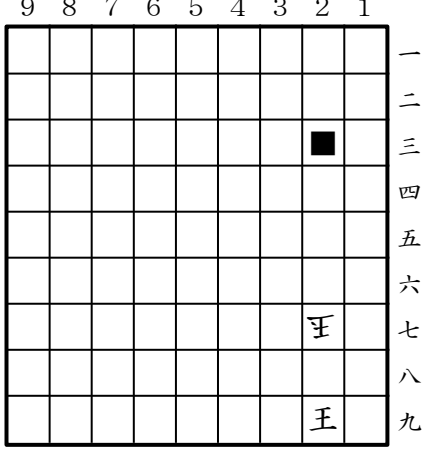
協力自玉詰 6手



持駒 角

【3-3】

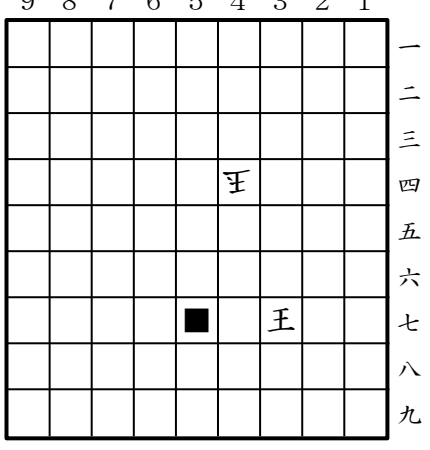
協力自玉詰 6手



持駒 桂

【3-4】

協力自玉詰 6手



持駒 桂

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2020年1月10日(金)

推理将棋第1 2 3 回出題

推理将棋 3 題

2020年1月15日(水)

第2回不詰展示会 (占魚亭)

フェアリー作品 3 題

ちょっと早い2020年年賀詰作品展

フェアリー作品 3 題

推理将棋 1 題

【締切指定なし】

第3回神無太郎の氾濫

フェアリー作品 4 題

2020年2月15日(土)

第117回WFP作品展

フェアリー作品 1 4 題

作品募集締切一覧

2020年2月15日(土)

Fairy of the Forest #62

課題：協力詰 (自由課題)

投稿先：酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)



【あとがき】

「はじめに」で書きました近藤孝さんの作品を紹介します。

近藤孝作 「土柱」 近将・1974/12

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	馬		王		料				一
	歩								二
将	皇	歩		歩	歩	と			三
	季						歩		四
		ス			将			歩	五
	歩	ス	歩						六
	銀	ス	桂	銀	ス			桂	七
		ス							八
		ス							九

持駒 飛歩

いかにも趣向作といった初形ですが、予想に違わぬ手順が繰り広げられます。初見の方もいらっしゃると思いますので解答は省略します。是非自力で解いてみてください。

作者は、徳島の方で昭和10年生まれ、塚田賞8回受賞という四国を代表する大作家です。お名前を聞かなくなってかなりになりますが、ご在命なら80台半ばですが、いかががされているでしょうか。

話は変わりますが、来年1月より高坂研氏による「レトロプロブレム入門」を連載致します。

チェスに関する記事はWFP初となります。乞うご期待！

それではまた来年もWFPもよろしくお願ひ致します。

たくぼん

2019年 第138号

Web Fairy Paradise

非売品

令和元年十二月号

令和元年十二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp